

一般社団法人 日本コンクリート診断士会
平成 28 年度（第 7 回）定時社員総会資料

平成 28 年 5 月 24 日(火)

議 案

- 第 1 号議案 平成 27 年度事業および収支報告
- 第 2 号議案 平成 28 年度事業および収支計画
- 第 3 号議案 細則改訂
- 第 4 号議案 理事・監事の改選

報 告

- (1) 会員数等報告
- (2) 参加委員会活動報告
- (3) 幹事 一覧
- (4) その他

討論会 コンクリート診断士会のこれからを考える

第 I 部 各地区コンクリート診断士会の活動報告

第 II 部 ～コンクリート診断士会のこれからを考える～

JCD

第1号議案 平成27年度事業および収支報告(案)

1. 平成27年度事業報告(平成27年4月1日～平成28年3月31日)

1.1 第6回定時社員総会

- 平成27年5月26日 場所：(公社)日本コンクリート工学会 会議室 正会員出席者65名
委任状出席者750名 合計議決権数815名(議決権数1176名)69%
(賛助会員, 法人会員:13名)
- 平成26年度事業報告・収支報告, 平成27年度事業計画・収支計画, 細則改訂について審議し承認された。
- 各地区診断士会より活動報告・計画が報告された。
- 長岡技術科学大学 名誉教授の丸山久一氏による「新潟地域におけるインフラの維持管理」～技術者育成の取組と今後の展望～について特別講演があった。

2. 各部会報告

2.1 企画部会

- 部会長会議を開催(平成27年11月27日、平成28年3月15日の2回開催)
- 部会長会議の新設に関する細則の改訂
- 国土交通省による技術者資格登録に関する情報収集およびその対応
- 国土交通省担当官による講演会(JCI年次大会)での質問内容の検討と質問対応
- 日本コンクリート工学会との意見交換会の開催
- 平成28・29年度期理事・監事の選出方針の提案と理事・監事推薦委員会の開催
- 他部会の事業のサポートとブラッシュアップの提案

2.2 技術部会

(1) 第3回全国業務体験発表会の開催

地方開催の要望を受け, 石川県コンクリート診断士会の協力を得て初めて地方で開催した。

- 主催: 日本コンクリート診断士会, 共催: 石川県コンクリート診断士会
- 開催日時: 平成27年11月27日(金)12:30～17:30
- 開催場所: 石川県金沢市 IT ビジネスプラザ武蔵 6F 会議室
- 発表件数: 13件
- 参加者: 86名(詳細はJCDのHP参照)

(2) 講師派遣

地区診断士会等からの研修会・講演会等の講師派遣要請に対して, 講師の紹介や, 適任者を選定し, 下記の通り講師派遣を行った。

- 静岡コンクリート診断士会開催のコンクリート診断士受験対策セミナー → 峰松, 木村幹事
- 長野県コンクリート診断士会開催のコンクリート診断士受験対策講座 → 峰松, 星野, 木村幹事

(3) 受託業務対応

- 構造物の維持管理等の受託業務(定款第3条(4))への対応は, 受託の可否を含めて基本方針を検討し, 要請があった場合にはリスク等を十分考慮し, 慎重に対応した。
- 問合せ対応は多数あったが, 受託業務契約はなし。

(4) 関連委員会等へ参加

- ・ JCI のサステナビリティ委員会に引き続き参加し情報共有と、当会としての役割を果たした。
- ・ 土木研究所構造物メンテナンスセンターのシーザー発表会へ参加し、情報の共有化に努めた。

(5) 技術情報収集と会員への共有化

- ・ 会員からの技術情報やトピックス等を募集し、全会員への有用な情報を提供する。
- ・ 行政、学会、JCI などの主なトピックス、各地区で実施している取組み、新聞記事等の情報を共有化する。
- ・ 広報部会と協働してメールかわら版の発行を支援する。

(6) コンクリート診断士受験対策講座の開催

コンクリート診断士受験支援と診断技術のブラッシュアップを目的に下記の通り開催した。

- ・ コンクリート診断士受験・診断技術ブラッシュアップ講座
 - ✓ 主催：日本コンクリート診断士会，共催：東京コンクリート診断士会
 - ✓ 開催日時：平成 27 年 5 月 16 日（土）5 月 17 日（日） 9:00～17:00
 - ✓ 開催場所：東京都中小企業振興公社会議室
 - ✓ 参加者：36 名（会員 10 名，一般 26 名）
 - ✓ 使用テキスト：「コンクリート診断士 受験対策講座」（技報堂出版）
「コンクリート診断士受験のための計算問題攻略講座」（〃）
- ・ コンクリート診断士受験直前講座
 - ✓ 主催：日本コンクリート診断士会，共催：東京コンクリート診断士会
 - ✓ 開催日時：平成 27 年 6 月 20 日（土）9:00～17:00
 - ✓ 参加者：22 名（会員 7 名，一般 15 名）

2.3 広報部会

(1) メールかわら版の発行

- ・ 個人会員へ直接メール送信して関連情報の共有化を図るメールかわら版を技術部会と協働して発行した。
- ・ 本年度は 4 回発行（2015.06，2015.10，2016.01，2016.03）した。

(2) ホームページの充実

- 地区診断士会活動紹介，技術情報，催し物情報，特に地区診断士会からの情報提供による情報等を掲載した。ホームページについて下記の事項を実施した。
- ・ 随時ホームページを更新し，各種行事開催予定などの情報を速やかに会員へ提供した。
 - ・ 計画していた法人会員の保有技術について，申請のあった法人会員の保有技術をホームページに掲載した。

(3) 関連官公庁等への PR

国土交通省，都道府県，高速道路各社，土木研究所等へ当会の紹介と診断士制度活用について PR するとしたが今年度はできなかった。

(4) 関連催し物の後援

- ・ JCI，関連団体等で実施する本会の目的に合致する催し物を積極的に後援し，認知度向上と関連団体との連携強化を図った。
- ・ 情報交換についての実施結果は次のとおりである。

- ・各団体等で実施した関連講習会開催情報を、地区診断士会等にメールでお知らせした。
- ・催し物の後援・協賛の実施結果は次のとおりである。
 - ✓ JCI「コンクリートサステナビリティに関するシンポジウム」2015年11月17日および「コンクリートサステナビリティに関するシンポジウムⅡ」を後援した。
 - ✓ コンクリートメンテナンス協会「コンクリート構造物の補修・補強に関するフォーラム2015」を後援した。

2.4 会員部会

(1) 空白地区の診断士会設立促進・支援および未入会診断士会の入会案内

- ・特に関西，東北，四国，九州地区の診断士会設立のために引き続き支援活動をした。
- ・会員部会が中心となり，企画・広報部会と連携して具体的な計画を検討・実行した。
- ・診断士会を設立しているが，まだ当会に所属していない会には，山口県，奈良県診断士会がある。
- ・入会について案内を継続した結果，富山県，宮城県は平成28年度4月1日付で入会することとなった。
- ・熊本県診断士会は5月の総会で当会へ入会する方向で調整中である。
- ・現在，設立準備中の地区には香川県，長崎県，岡山県などがある。
- ・診断士会設立等について実施結果は次のとおりである。
 - ✓ 山口県コンクリート診断士会設立総会に小野副会長が出席し，講演を行った。
 - ✓ 奈良県コンクリート診断士会の設立総会に小野副会長，石川企画部会長が参加し，当会へ入会の案内を行った。

(2) 個人会員，法人会員増に対する活動

- ・JCIの診断士更新講習会等のチャンスを活用して入会へのPRを実施した。
- ・コンクリート診断，補修・補強業務に関係の深い企業に対し，積極的に法人会員へ入会へのPRを随時実施し，法人会員の増加を図った。
- ・法人会員拡大計画について実施結果は次のとおりである。
- ・随時関係者に入会について案内をした。
 - ✓ 計画ではA会員1社，B会員1社，C会員4社の合計6社入会としたが，実績はA会員0社，B会員0社，C会員2社で，現在法人会員は71社である。なお，昨年度末の会員数は69社である。

2.5 財務部会

(1) 当会の定款に定められた事業計画を実行するための健全な財務体質を構築した。

中間決算を行い，健全な財務の執行に努めた。

(2) 当会の財務の執行状況を適時確認し，必要に応じて事務局と協働して適正化を図った。

2.6 事務局

(1) 会長，副会長，理事間，各部会間，地区診断士会間の連絡調整

会長，副会長，各理事，各部会活動および各地区診断士会活動連携強化の支援を行った。

(2) 会員管理の充実

- ・ 会員名簿等の会員情報の更新，会員証発行，地区診断士会との調整等確実かつ円滑に実施した。
- ・ 新規入会者に対して 6 月，10 月の 2 回にまとめて会員証を発行した。
- ・ 個人会員証の裏に行動規範要約を印刷し，これを携帯することにより，会員の倫理意識の向上を図った。
- ・ 会員管理に関する実施事項は次のとおりである。
 - ✓ 法人会員，個人正会員，個人賛助会員の追加会員証を作成し配布した。
 - ✓ 地区診断士会が取りまとめた個人会員名，連絡先等の会員名簿を定款 11 条に基づき整備・保管を実施した。

(3) 事務局業務の効率化，簡素化

- ・ 予算管理，確定申告，ホームページ更新等の年間事務局業務を整理し，効率化と経費節減に努力した。

(4) 部会・幹事会活動の支援

- ・ 各部会・幹事会活動が円滑に推進できるように支援した。
- ・ メールかわら版を発行したので，実施体制整備を支援した。
- ・ 部会・幹事会活動支援の活動実績は次のとおりである。
 - ✓ 幹事会については，別紙 2 のとおり企画部会を支援した。
 - ✓ 部会長会議は，平成 27 年 11 月 27 日および平成 28 年 3 月 15 日の 2 回の開催を支援した。

(5) その他業務

当会の目的を達成するための各種業務を実施した。主な業務内容は下記のとおりである。

- ・ 第 5 回定時社員総会開催
 - ✓ 平成 27 年 5 月 26 日（火） 場所：公益社団法人日本コンクリート工学会会議室
 - ✓ 平成 26 年度事業報告・収支報告，平成 27 年度事業計画・収支計画，各部会活動報告と今後の計画，細則改訂
 - ✓ 総会については上記 1.1 のとおりである。
- ・ 理事会開催
 - ✓ 総会当日に理事会を開催した。
 - ✓ 必要に応じてメールにより随時理事会を開催した。
 - ✓ 幹事会報告等について，各部会からの意見に基づき審議した。
 - ✓ 年間 28 回開催した。
 - ✓ 活動実績は別紙 1 のとおりである。
- ・ 幹事会
 - ✓ 理事会の指示および年度計画に基づき懸案事項について検討した。
 - ✓ 年間 4 回開催した。
 - ✓ 活動実績は別紙 2 のとおりである。

以上

3. 平成27年度収支報告(案)

平成27年度(平成27年4月1日～平成28年3月31日)の収支・決算(案)を表-1に示す。

表-1 平成27年度の収支・決算(案)

収支	No.	項目	種別	数量	単位	単価	収入	支出	合計	27年度予算	26年度実績	備考		
収入		前年度繰り越し		1	式	1,083,777	1,083,777		1,083,777	1,083,777	1,104,851	27年度分には前受金12000円を含む		
	1.1	会費	法人会員会費	SA	0	社	100,000	0	2,456,300	2,513,000	1,981,850			
				A	13	社	50,000	650,000			700,000			
				B	9	社	30,000	270,000			300,000			
				C	49	社	10,000	490,000			500,000			
			個人会員会費	個人分	1350	人	800	1,080,500			1,040,000		前年度未納分500円含む	
				法人分	-41	人	2,200	-90,200			-110,000		法人登録分41名	
				個人分	11	人	3,000	33,000			33,000			
			入会金	法人分	2	社	10,000	20,000			50,000			
				個人分	1	人	3,000	3,000			0			
	2.1		雑収入							1,083,580	686,900	1,774,935		
			受験講座講習会	27年度前受金	1	式	120,000							
	2.2		受験講座講習会		1	式	466,270	466,270			339,000		27.5月開催、前受金は減額	
	2.3		直前講座講習会		1	式	230,270	230,270			187,000		27.6月開催	
	2.4		講師派遣等		1	式	387,040	387,040			160,900		静岡、長野	
			雑収入2							404,581	290,000			
	2.5		業務発表会参加費		1	式	162,000	162,000			120,000		2000円*65名+4000円*8名	
	2.6		講習会28年度分	28年度前受金	1	式	97,000	97,000					前受金97,000円	
	2.7		交流会参加費		1	式	108,500	108,500			170,000		総会および部会長会後	
			通信費分担分		1	式	20,000	20,000					TCD分担分	
	2.8		その他		1	式	16,650	16,650					会員証印刷費13.65千円、資料配布3千円	
	2.9		受取利息		1	式	431	431						
										計	5,028,238	4,573,677	4,861,636	
	支出	4	運営費	事務費						1,703,861	1,660,000	1,574,963		
		4.1.1		事務局人件費	1	式	1,134,560	1,134,560			1,080,000			
		4.1.2		事務所経費	12	月	30,000	360,000			360,000			
		4.1.4		資料作成費等			10,000	0			10,000			
		4.1.5		事務用品費	1	式	13,139	13,139			24,000			
		4.1.6		HP維持管理費	12	月	5,000	60,000			60,000			
4.1.7			通信費	1	式	74,269	74,269			72,000			電話代、プロバイダー費含む	
4.1.8			荷造り送料	1	式	1,304	1,304			5,000			宅急便他	
4.1.9			会員証作成費			20	0			2,000			定期発行は5年に1回	
4.1.10			振込手数料他	1	式	1,404	1,404			2,000				
4.1.11			租税公課			5,000	0			5,000				
4.1.12			事務局費その他	1	式	59,185	59,185			40,000			図書、ソフト、BCP対策費他	
4.2			総会費							152,621	156,000	155,127		
4.2.1				特別講演費	1	式	33,411	33,411			56,000			
4.2.2				資料印刷費	1	式	35,564	35,564			21,000			
4.2.3				椅子他費用	1	式	18,846	18,846			19,000			
				その他	1	式	64,800	64,800			60,000			
4.3			行事費							151,438	276,000	186,876		
4.3.1				業務発表会	1	式	151,438	151,438			106,000			資料印刷費、会場費他
4.3.2				セミナー費	1	式	0	0			0			各地区と共催し、地区で負担
4.3.3				見学会費	1	式	0	0			0			各地区と共催し、地区で負担
				交流会費	1	式		0			170,000			各行事に記載
4.4			宣伝広告費				130,000	0		0	130,000	28,080	HPの改造を含む、28年度の繰り越し	
4.5			活動費							118,080	215,000	122,230		
4.5.1				理事会	1	式	34,510	34,510			60,000			理事会分、推薦委、山陰10周年参加費
4.5.2				理事会資料他	1	式	3,310	3,310			5,000			部会長会分3/8
4.5.3				部会活動費	1	式	44,620	44,620			150,000			部会長会会場費、講習会参加費含む
4.5.4				部会長会後交流会	1	式	35,640	35,640			0			
4.6			役員活動交通費							498,040	420,000	298,310		
				事務局交通費	1	式	142,520	142,520			120,000			委員会参加交通費を含む
				役員活動交通費	1	式	355,520	355,520			300,000			部会長会議、幹事交通費他
4.7														
4.7.1			受託・講習会関係							1,033,494	726,960	1,318,873		
4.7.2				外注費	1	式	0	0						
4.7.3				受験講座講習会	1	式	469,066	469,066			393,260			28年度会場費他支払あり
4.7.4				直前講座講習会	1	式	217,138	217,138			185,200			
4.7.5				講師派遣他	1	式	347,290	347,290			148,500			静岡、長野分
4.8		法人税等							92,700	94,200	93,400	法人税等26年度分		
4.8.1			法人所得税	1	式	15,400	15,400			16,900				
4.8.2			法人住民税	1	式	20,700	20,700			20,700				
4.8.3			事業税	1	式	4,800	4,800			4,800				
4.8.4			法人市民税	1	式	51,800	51,800							
		預り金								51,800			26年度分、決算分は含まれず	
5		予備費(繰越金)		1	式	1,278,004	1,278,004		1,278,004	895,517	1,083,777			
									支出計	3,750,234				
							5,028,238	5,028,238			4,861,636			

監査報告

以上のとおり報告します。


平成28年 3月 31日

一般社団法人日本コンクリート診断士会


監査の結果、いずれも適法かつ正確であることを認めます。

平成28年5月12日

監 事

伊藤 司郎 

監 事

田畑 雅幸 

第2号議案 平成28年度事業および収支計画（案）

1. 平成28年度事業計画（平成28年4月1日～平成29年3月31日）

1.1 企画部会

- ・「コンクリート診断士会のこれからを考える討論会」の企画・運営
- ・日本コンクリート工学会との意見交換会の開催
- ・部会長会議の開催
- ・理事会のメーリングリスト化
- ・他部会の事業のサポートとブラッシュアップ

1.2 総務部会

- ・総会に関する事項を計画および実施する。
- ・定款等の会則について必要に応じて検討を行う。
- ・当会の定款に定められた事業計画を実行するための健全な財務体質を構築する。
- ・効率的な活動を実施するため、収入増加、支出削減対策を検討・実施する。
- ・当会の財務の執行状況を適時確認し、必要に応じて事務局と協働して適正化を図る。

1.3 技術部会

(1) 第4回全国業務体験発表会の開催

- ・昨年度は初めて地方開催として石川県金沢市で開催したが、今年度は東京で開催する。
- ・実施方法について再検討するとともに、一層有意義な情報交換の場となるよう計画する。

(2) 講師派遣

- ・地区診断士会等からの研修会・講演会等の講師派遣要請に対して、講師の紹介や、適任者を選定し派遣する。

(3) 受託業務対応

- ・構造物の維持管理等の受託業務（定款第3条（4））への対応は、受託の可否を含めて基本方針を検討する。
- ・要請があった場合にはリスク等を十分考慮し、慎重に対応する。

(4) 関連委員会等へ参加

- ・現在参加しているJCIのサステナビリティ委員会に引き続き参加し情報共有と、当会としてできる範囲で支援を行う。
- ・土木研究所構造物メンテナンスセンターのシーザー技術交流会へ参加し、情報の共有化に努める。

(5) 技術情報収集と会員への共有化

- ・会員からの技術情報やトピックス等を募集し、全会員への有用な情報を提供する。
- ・行政、学会、JCIなどの主なトピックス、各地区で実施している取組み、新聞記事等の情報を共有化する。
- ・広報部会と協働してメールかわら版の発行を支援する。

(6) コンクリート診断士受験者支援と診断士の資格所有者に対する技術力向上支援等への対応

- ・社会的な期待に応えるべく、診断士受験・診断技術ブラッシュアップ講座などを開催するとともに、各地区での同種講習会の計画に対して、講師推薦・派遣、資料紹介等の支援を行う。

(7) コンクリート診断士技術力向上研修会の開催

- ・ 27年度国交省民間資格の業務内容が、診断まで登録されたことを受けて、診断業務まで確実にを行うための基礎知識の習得を目的として、主に26年以前の既資格者を対象に、「コンクリート構造」についての研修を実施する。
- ・ 開催は、地区会が行っている技術研修の一部として取り入れていただくことにする。講師およびテキストは地区に一任するが、診断士27年度試験問題等の過去問題等の利用が考えられる。
- ・ なお、適当な講師がない場合は、(6)に示したように、日本コンクリート診断士会からの派遣を検討する。

1.4 広報部会

(1) メールかわら版の発行

- ・ 個人会員へ直接メール送信して、関連情報の共有化を図るメールかわら版を、技術部会と協働して発行する。
- ・ 本年度は4回発行を予定している。

(2) ホームページの充実

- ・ 地区診断士会活動紹介、技術情報、催し物情報、特に地区診断士会からの情報提供による情報等を掲載する。

(3) 関連官公庁等へのPR

- ・ 国土交通省、都道府県、高速道路各社、土木研究所等へ当会の紹介と診断士制度活用についてPRする。
- ・ 以上、広報部会内で具体的な活動計画を作成し実行する。

(4) 関連催し物の後援

- ・ JCI、関連団体等で実施する本会の目的に合致する催し物を積極的に後援し、認知度向上と関連団体との連携強化を図る。

1.5 会員部会

(1) 空白地区の診断士会設立促進・支援

- ・ 関西、東北、四国、九州地区の診断士会設立のために引き続き支援活動をする。
- ・ 会員部会が中心となり、企画・広報部会と連携して具体的な計画を検討し実行する。

(2) 個人会員、法人会員増に対する活動

- ・ 診断士更新講習会等のチャンスを活用して入会へのPRを実施する。
- ・ コンクリート診断、補修・補強業務に関係の深い企業に対し、積極的に法人会員へ入会へのPRを随時実施し、法人会員の増加を図る。

1.6 事務局

(1) 会長、副会長、理事間、各部会間、地区診断士会間の連絡調整

会長、副会長、各理事、各部会活動および各地区診断士会活動・連携強化の支援を行う。

(2) 会員管理の充実

- ・ 会員名簿等の会員情報の更新、会員証発行、地区診断士会との調整等確実かつ円滑に実施する。
- ・ 新規入会者に対して6月、10月の2回にまとめて会員証を発行する。

- ・ 個人会員証の裏に行動規範要約を印刷し、これを携帯することにより、会員の倫理意識の向上を図る。
 - ・ 会員名簿等の個人情報を今まで以上に厳格管理し、漏洩が絶対ない方法を再検討する。
- (3) 事務局業務の効率化，簡素化
- ・ 予算管理，確定申告，ホームページ更新等の年間事務局業務を整理し，効率化と経費節減に努力する。
- (4) 部会・幹事会活動の支援
- ・ 各部会・幹事会活動が円滑に推進できるように支援する。
 - ・ 本年度もメールかわら版の発行を支援する。
- (5) その他業務
- ・ 当会の目的を達成するための各種業務を実施する。

以上

2. 平成 28 年度収支計画（案）

平成 28 年度（平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日）の収支計画(案)を表-2 に示す。

表-2 平成 28 年度の収支計画（案）

収支	No.	項目	種別	数量	単位	単価	収入	支出	合計	27年度実績	26年度実績	備考		
収入		前年度繰り越し		1	式	1,278,004	1,278,004		1,278,004	1,083,777	1,104,851	28年度分には前受金97000円を含む		
	1.1	会費	法人会員会費	SA	0	社	100,000	0	2,735,000	2,456,300	1,981,850			
				A	14	社	50,000	700,000						
				B	12	社	30,000	360,000						
				C	51	社	10,000	510,000						
			個人会員会費	個人分	1470	人	800	1,176,000						
				法人分	-50	人	2,200	-110,000					法人登録分	
				個人分	11	人	3,000	33,000						
			入会金	法人分	6	社	10,000	60,000						
				個人分	2	人	3,000	6,000						
	2.1	雑収入	受託業務		1	式	0	0	0	681,000	1,083,580	1,774,935		
	2.2		受験講座講習会		1	式	307,000	307,000				826,000	28.5月開催予定、前受金は減額	
	2.3		直前講座講習会		1	式	214,000	214,000					28.6月開催予定	
	2.4		講師派遣等		1	式	160,000	160,000					静岡	
		雑収入2								277,500	404,581			
	2.5		業務発表会参加費		1	式	120,000	120,000					2000円*60名	
	2.6		講習会28年度分		1	式		0					前受金	
	2.7		交流会参加費		1	式	157,500	157,500					総会および業務体験発表会後	
	2.8		その他		1	式	0	0						
	2.9		受取利息		1	式	0	0						
										計	4,971,504	5,028,238	4,861,636	
	支出	4	運営費	事務費						1,831,000	1,703,861	1,574,963		
		4.1.1		事務局人件費	12	式	100,000		1,200,000					
		4.1.2		事務所経費	12	月	30,000		360,000					
		4.1.4		資料作成費等	1	式	10,000		10,000					
		4.1.5		事務用品費	12	式	2,000		24,000					
		4.1.6		HP維持管理費	12	月	5,000		60,000					
		4.1.7		通信費	12	式	6,000		72,000					電話代、プロバイダー費含む
		4.1.8		荷造り送料	1	式	5,000		5,000					宅急便他
4.1.9			会員証作成費	150	枚	20		3,000					定期発行は5年に1回	
4.1.10			振込手数料他	1	式	2,000		2,000						
4.1.11			租税公課	1	式	5,000		5,000						
4.1.12			その他	1	式	90,000		90,000					定款更新、ソフト他	
4.2		総会費								169,000	152,621	155,127		
4.2.1			バナナ一準備費他	1	式	35,000		35,000						
4.2.2			資料印刷費	80	部	500		40,000						
4.2.3			椅子他費用	1	式	19,000		19,000						
			その他	1	式	75,000		75,000					総会後交流会分：3500*20人他	
4.3		行事費								168,500	151,438	186,876		
4.3.1			業務発表会	1	式	81,000		81,000					資料印刷費、会場費他	
4.3.2			セミナー費	1	式	0		0					各地区と共催し、地区で負担	
4.3.3			見学会費	1	式	0		0					各地区と共催し、地区で負担	
			交流会費	1	式	87,500		87,500					業務報告会後交流会：3500*25人	
4.4		宣伝広告費								170,000	0	28,080	HPの改造、パンフ更新を含む	
4.5		活動費								215,000	118,080	122,230		
			理事会他	1	式	60,000		60,000						
			理事会資料他	1	式	5,000		5,000						
			部会活動費	5	部会	30,000		150,000						
4.6		役員活動交通費								432,000	498,040	298,310		
			事務局交通費	12	月	11,000			132,000				委員会参加交通費を含む	
			役員活動交通費	1	式	300,000			300,000				部会長会議、幹事交通費他	
4.7		受託・講習会関係								698,621	1,033,494	1,318,873		
4.7.1			外注費	1	式	0		0						
4.7.2			受験講座講習会	1	式	343,551		343,551						
4.7.3			直前講座講習会	1	式	206,570		206,570						
4.7.4			講師派遣他	1	式	148,500		148,500					静岡派遣	
4.7.5								0						
4.8		法人税等								107,800	92,700	93,400		
4.8.1			法人所得税	1	式	25,500		25,500					27年度分に対して課税	
4.8.2			法人都民税	1	式	21,200		21,200						
4.8.3			事業税	1	式	8,100		8,100						
4.8.4			法人市民税	1	式	53,000		53,000						
4.9	預り金								0					
5	予備費						1,179,583	1,179,583	1,179,583	1,278,004	1,083,777			
									支出計	3,791,921	3,750,234			
							合計	4,971,504	4,971,504	5,028,238	4,861,636			

第3号議案 細則の改訂

項目	改訂前	改訂後
第1章 第2条	<p>(会員の資格)</p> <p>第2条 会員の資格は、理事会の承認を得た月の初日から有効とする。</p> <p>2 入会の資格を得た会員は、以下の入会金を納付する。</p> <p>(1) 正会員 3,000円</p> <p>(2) 学術会員 0円</p> <p>(3) 法人会員 10,000円</p> <p>(4) 賛助会員 3,000円</p>	<p>(会員の資格)</p> <p>第2条 会員の資格は、理事会の承認を得た月の初日から有効とする。<u>ただし、地区の会を通じて入会する場合は、地区の会からの会員名簿が事務局に提出された日をもって会員資格を有効とする。</u></p> <p>2 入会の資格を得た会員は、以下の入会金を納付する。<u>ただし、地区の会を通じて入会する場合には入会金は免除する。</u></p> <p>(1) 正会員 3,000円</p> <p>(以下、変更なし)</p>
第2章 第5条	<p>(会費の負担)</p> <p>第5条 会員は、本会の事業活動にあてる会費として、次の年会費を負担する。なお、本法人に4月1日に在籍している会員および途中入会者が対象となる。</p> <p>(1) 正会員・賛助会員 年額 3,000円</p> <p>なお、地区の会に所属する会員はそれぞれの地区の会の規定により年会費を支払い、そのうち800円を本会会費に、それ以外の会費は地区の会の活動費として使用する。<u>ただし、本項の変更は平成27年度から実施するとする。</u></p> <p>(2) 学術会員 年額 0円</p> <p>(3) 法人会員</p> <p>(変更なし)</p>	<p>(会費の負担)</p> <p>第5条 会員は、本会の事業活動にあてる会費として、次の年会費を負担する。なお、本法人に4月1日に在籍している会員および途中入会者が対象となる。</p> <p>(1) 正会員・賛助会員 年額 3,000円</p> <p>なお、地区の会に所属する会員はそれぞれの地区の会の規定により年会費を支払い、そのうち800円を本会会費に、それ以外の会費は地区の会の活動費として使用する。</p> <p>(「ただし、以下」削除)</p> <p>(2) 学術会員 年額 0円</p> <p>(3) 法人会員</p> <p>(変更なし)</p>
第3章 第7条	<p>(地区の会の設置)</p> <p>第7条 各地区における活動を効果的に運営するために、地区の会申請書を理事会に提出しその承認により地区の会の設置をすることができる。</p>	<p>(地区の会の設置)</p> <p>第7条 各地区における活動を効果的に運営するために、地区の会申請書を理事会に提出しその承認により地区の会の設置をすることができる。</p> <p><u>地区の会の承認要件は、以下の通りとする。</u></p> <p><u>1 原則として、地区の会に所属する当会で承認された学術会員、コンクリート診断士の全員が日本コンクリート診断士会の会員として入会すること。</u></p> <p><u>2 日本コンクリート診断士会の地区の会の承認を得ることに關して、その地区の会の総会の決議を得ていること。</u></p> <p><u>3 地区の会の代表者は、日本コンクリート診断士会と地区の会の相互の連絡・調整を行い、日本コンクリート診断士会の円滑な運営に協力すること。</u></p> <p><u>4 日本コンクリート診断士会の主旨等に合致する規約を有すること。</u></p> <p><u>5 業種等により入会制限を設けていないこと。</u></p>

<p>第3章 第8条</p>	<p>(部会の設置と構成)</p> <p>第8条 本会の活動を効果的に運営するために、理事会の決議により部会を設置することができる。</p> <p>2 部会は企画部会、<u>財務部会</u>、技術部会、広報部会、会員部会とする。</p> <p>3 部会は、部会長および副部会長ならびに部員をもって構成する。</p>	<p>(部会の設置と構成)</p> <p>第8条 本会の活動を効果的に運営するために、理事会の決議により部会を設置することができる。</p> <p>2 部会は企画部会、<u>総務部会</u>、技術部会、広報部会、会員部会とする。</p> <p>3 部会は、部会長および副部会長ならびに部員をもって構成する。</p>
<p>第3章 第12条</p>	<p>(部会長会の設置)</p> <p>第12条 各部会の相互連携、連絡調整を図るため、部会長会を設置する。</p> <p>2 主催は企画部会とする。</p> <p>3 会議は必要に応じて開催し、理事会に議事内容の報告や提案を行う。</p> <p>4 会の構成メンバーは、会長、副会長、各部会長、事務局長とするが、参加を希望する他の理事、監事、地区診断士会代表の出席を妨げない。</p>	<p>(部会長会の設置)</p> <p>第12条 各部会の相互連携、連絡調整を図るため、部会長会を設置する。</p> <p>2 主催は企画部会とする。</p> <p>3 <u>部会長</u>会議は必要に応じて開催し、理事会に議事内容の報告や提案を行う。</p> <p>4 会の構成メンバーは、会長、副会長、各部会長、事務局長とするが、<u>部会長会議にオブザーバーとして</u>参加を希望する他の理事、監事、<u>地区の会の代表者</u>の出席は妨げない。<u>なお、「地区の会の代表者」とは、当該地区の会より推薦された者をいう。</u></p>
<p>第4章 第13条</p>	<p>(理事・監事の委嘱)</p> <p>第13条 地区の会の代表者は理事または監事となることを原則とする。</p> <p>2 ただし理事の定員を超えた場合は、<u>複数の地区の代表者</u>が理事または監事となる。</p> <p>3 地区の会の代表者でも、理事会が必要と判断される正会員および学会員を理事または監事に委嘱することができる。</p>	<p>(理事・監事の委嘱)</p> <p>第13条 <u>地区の会の代表者もしくはその地区から推薦を受けた者が</u>、理事または監事となることを原則とする。</p> <p>2 地区の会の代表者<u>以外</u>でも、理事会が必要と判断される正会員および学会員を理事または監事に委嘱することができる。</p> <p>3 <u>法人会員 (SA, A) 所属の学会員または正会員は理事・監事として立候補することができる。</u></p> <p>4 理事の定員を超えた場合は、<u>複数の地区を代表する者が</u>理事または監事となる。</p>

第4号議案 理事・監事の改選

所属部会	役職	候補者名	地区会・社名	備考
会長	—	林 静雄	東京	
副会長	—	小野 定	東京	
副会長	—	佐藤 嘉昭	大分	
企画部会	企画部会長	石川 裕夏	福井	
企画部会	企画副部会長	原田 隆敏	高知	
企画部会	企画副部会長	岡崎 勝信	宮崎	
総務部会	総務部会長	井田 豊	島根	元財務部会
総務部会	総務副部会長	竹内 祥一	東海	元財務部会
総務部会	総務副部会長	大和 竹史	福岡	新規
技術部会	技術部会長	奥村 智洋	鳥取	
技術部会	技術副部会長	奥田 由法	石川	
技術部会	技術副部会長	米倉 亜州夫	広島	
広報部会	広報部会長	名倉 昭三	静岡	
広報部会	広報副部会長	日堂 俊之	長野	
広報部会	広報副部会長	岸川 英樹	京滋	
会員部会	会員部会長	奈良 裕	青森	
会員部会	会員副部会長	細谷 多慶	法人（ランダス）	新規
監事	—	田畑 雅幸	北海道	
監事	—	本田 明	新潟	新規
事務局長	—	田澤雄二郎	東京	元会員部会
退任	監事	伊藤 司郎	新潟	
退任	事務局長	毎田 敏郎	東京	

別紙 1

理事会活動実績（メールによるものの日付は発信日）

- 第 27-01 回 H27.04.09 : ・奈良県コンクリート診断士会設立助成金について。
- 第 27-02 回 H27.04.21 : ・株式会社アストンの入会について。
- 第 27-03 回 H27.04.24 : ・JCD 部会長会議事録について
- 第 27-04 回 H27.04.28 : ・JCD 第 6 回総会資料について。
- 第 27-05 回 H27.05.01 : ・コンクリート診断士受験直前講座開催について。
- 第 27-06 回 H27.05.08 : ・新任幹事山田氏の承認について。
- 第 27-07 回 H27.05.21 : ・JCI の「コンクリート構造物の最先端診断技術に関するシンポジウム」の後援について
- 第 27-08 回 H27.06.08 : ・JCI より「物理化学的解釈に基づく電気化学的計測手法の体系化に関するシンポジウム」の後援について。
- 第 27-09 回 H27.06.12 : ・「インフラ整備・維持管理における技術者資格の活用について」講演会での質問について。
- 第 27-10 回 H27.06.15 : ・個人会員菅原 稔氏の入会の承認について。
- 第 27-11 回 H27.06.22 : ・第 6 回総会および第 27-6-6 理事会議事録の承認について。
- 第 27-12 回 H27.09.09 : ・コンクリートメンテナンス協会より「コンクリート構造物の補修・補強に関するフォーラム」2015 後援依頼について
- 第 27-13 回 H27.09.16 : ・JCI よりコンクリートサステナビリティに関するシンポジウムの後援依頼について。
- 第 27-14 回 H27.10.01 : ・福井県診断士会主催の研修会の後援について。
- 第 27-15 回 H27.10.16 : ・地区診断士会から 10 月以降に入会する場合の年会費について。
- 第 27-16 回 H27.10.16 : ・島根 学会会員 丸田教授の承認について。
- 第 27-17 回 H27.10.26 : ・長野 学会会員 大上教授の承認について。
- 第 27-18 回 H27.10.28 : ・福岡県コンクリート主任技士・診断士会の入会について。
- 第 27-19 回 H27.11.02 : ・福岡 学会会員 大和名誉教授および椎葉名誉教授の承認について。
- 第 27-20 回 H28.01.13 : ・理事・監事選定方針について。
- 第 27-21 回 H28.01.28 : ・JCI より 3 月 9 日開催の「コンクリートサステナビリティに関するシンポジウムⅡー社会の持続可能性に向けた施策とコンクリート・建設産業の役割ー」の後援について。
- 第 27-22 回 H28.02.04 : ・東京 学会会員 橋高教授の承認について。
・富山県コンクリート診断士会の入会の承認について
・JCI からのシンポジウムほかの後援依頼の理事会承認省略について
- 第 27-23 回 H28.02.04 : ・診断士受験講座開催について。
- 第 27-24 回 H28.02.04 : ・細則・内規の改訂について。
- 第 27-25 回 H28.02.09 : ・総会時のこれからの考える討論会について。
- 第 27-26 回 H28.02.12 : ・宮城県コンクリート診断士会入会について。
- 第 27-27 回 H28.02.12 : ・法人会員ニッシリ入会について。
- 第 27-28 回 H28.03.04 : ・メンテナンス協会フォーラム後援について。

別紙 2

幹事会活動実績

- 第 27-1 回 平成 27 年 4 月 21 日（火）16：30～17：45 事務局にて
- ・第 6 回定時社員総会の案内について。
 - ・第 6 回定時社員総会の附議事項確認，報告事項確認について。
 - ・26 年度事業報告および収支決算について
 - ・27 年度事業計画および収支計画について
- 第 27-2 回 平成 27 年 7 月 28 日（水）16：20～17：40 事務局にて
- ・メールかわら版について。
 - ・第 2 回業務体験発表会について。
 - ・国交省民間資格認定対策について
 - ・地区診断士会新規入会について
 - ・その他
- 第 27-3 回 平成 27 年 10 月 8 日（月）14：00～15：20 事務局にて
- ・第 3 号メールかわら版について。
 - ・第 2 回業務体験発表会・見学会について。
 - ・国交省民間資格認定後の発注機関の仕様書等について
 - ・地区診断士会新規入会の手続き状況について。
 - ・部会長会議について
 - ・その他
- 第 27-4 回 平成 28 年 1 月 20 日（木）14：00～15：50 事務局にて
- ・総会対応について。
 - ・診断士受験対策講座の開催について。
 - ・第 4 回業務体験発表会開催日程について
 - ・その他：HP のリニューアルについて。
- 第 27-5 回 平成 28 年 3 月 8 日（水）16：00～17：00 事務局にて
- ・総会準備状況について。
 - ・診断士受験対策講座状況について
 - ・細則・内規について。
 - ・未入会地区の会の状況について。

報告 (1) 会員数等報告

個人会員数 (28.4.1 現在)

No.	名 称	学術	正 (法)	賛 (法)	正	賛助	合計	27.4	増減
1	福井県コンクリート診断士会	0			111	5	116	104	12
2	鳥取県コンクリート診断士会	2			42	0	44	37	7
3	島根県コンクリート診断士会	1			77	0	78	75	3
4	東京コンクリート診断士会	3	21	6	178	3	211	189	22
5	石川県コンクリート診断士会	0			72	8	80	80	0
6	NPO 大分県コンクリート診断士会	1	1	0	70	0	72	72	0
7	青森県コンクリート診断士会	2	1	0	48	0	51	49	2
8	静岡コンクリート診断士会	0			68	0	68	61	7
9	京滋コンクリート診断士会	0	2	0	12	1	15	16	-1
10	高知県コンクリート診断士会	2			34	0	36	35	1
11	新潟県コンクリート診断士会	2			113	6	121	112	9
12	長野県コンクリート診断士会	3	2	1	49	13	68	65	3
13	北海道コンクリート診断士会	0	4	1	118	6	129	136	-7
14	東海コンクリート診断士会	1	0	2	72	23	98	92	6
15	広島県コンクリート診断士会	2	0	0	78	0	80	79	1
16	宮崎県コンクリート診断士会	1			33	61	95	95	0
17	(一社)福岡県コンクリート主任技士・診断士会	2	0	0	43	2	47	0	47
18	富山県コンクリート診断士会	0			64	0	64	0	64
19	宮城県コンクリート診断士会	0			11	0	11	0	11
20	直接入会会員		1		8	1	10	12	-2
	合計	22	32	10	1301	129	1494	1309	185

地区の会からの登録会員数：1420 名

学術・正会員数：1355 名

法人会員数 (28.4.1 現在)

No.	法人会員 R	会員数	法人登録会員	
			正会員	賛助
1	ランク SA	0	-	-
2	ランク A	13	12	4
3	ランク B	9	8	2
4	ランク C	49	12	4
	合計	71	32	10

報告 (2) 参加委員会活動報告

(1) 27 年度サステナビリティ委員会・サステナビリティフォーラム活動報告

27 年度のサステナビリティフォーラムの活動の概要（委員会開催月日+主な議題他）を以下に示す。

1) 第 17 回 2015 年 6 月 5 日

議題と主な討議内容を下記に示す。

① 前回議事録確認

② 「コンクリート環境士」資格制度の創設に関する提言書について

- ・企画調整委員会に対して提言書について説明を行った。

③ 日本の約束草案（政府原案）について

④ 鉄鋼業における CO₂ 排出量削減について

⑤ 今後の展開について

- ・ 今後は、より広く、環境・サステナビリティに関心を抱いている業界を巻き込み、環境・サステナビリティへの関心を高めていく必要があり、業界全体で、現状を知り、今後の方向性について議論する場を設ける必要がある。
- ・ 8 月には、ゼネコンに対して、設計者に対して行ったヒアリングと同様のものを実施する。
- ・ 10 月には、建設業、セメント業、鉄鋼業との意見交換会を公の場で実施し、今後の方向性についての議論を行う。
- ・ その後は、フォーラム参画業界・団体ごとに、より深く環境・サステナビリティに関する意見交換・議論を行っていく。
- ・ 建築業界では、省エネ・低炭素化のために一丸となって取り組み、そのような建築物も高く評価される。また、鉄鋼業界も、環境への取り組みを積極的に PR しているが、セメント・コンクリート業界も環境への取り組みを PR していくべきである。

2) 第 18 回 2015 年 8 月 18 日

議題と主な討議内容を下記に示す。今回のサステナビリティフォーラムは建設会社の専門家との意見交換である。

① 意見交換について

意見交換は、大成建設、三井住友建設、清水建設、鹿島建設、大林組と行われた。

② コンクリート業界への助言について

建設会社の専門家から、下記のようなコンクリート業界に対する助言・提案が寄せられた。

- ・ 低炭素コンクリートのような技術は、海外発信が重要であり、Win-Win の関係を築ける。
- ・ コンクリート自体は耐久性の高いもので、高耐久なコンクリート技術の海外発信が重要である。
- ・ 世の中には様々な環境配慮型のコンクリートがあり、それを内部から発信していく必要がある。
- ・ コンクリート廃棄物の後始末を大きな問題として位置づけ、取り組む必要がある。
- ・ 材料分野の専門家だけでなく、構造分野・施工分野の専門家も協力して取り組む必要がある。

③ 今後の意見交換会について

日本コンクリート工学会とは関係が希薄であるが、重要な部門である下記の業界と意見交換会を持つこととする。

- ・ 民間の発注者（不動産、JR など）・・・スマートシティ関係者

- ・建設コンサルタント

3) 第 19 回 2015 年 10 月 21 日

議題と主な討議内容を下記に示す。

①前回議事録確認

②コンクリートサステナビリティに関するシンポジウムについて

資料・フォーラム 19-2 および資料・ソーラム 19-3 に基づき、堺議長により、2015 年 11 月 17 日および 2016 年 3 月 9 日に実施するシンポジウムの概要の紹介がなされた。

③意見交換について

三井不動産・アーキテクチュラル・エンジニアリングの永矢氏から、自己紹介がなされた後、堺議長からサステナビリティフォーラムの設置主旨およびヒアリング実施の目的について紹介がなされ、コンクリートとサステナビリティとの関係に関する意見交換がなされた。

④サステナビリティに関する各業界の動向について

- ・コンクリート製品協会では、経営者が参画する委員会を組織化し、経営者の意識の向上につながった。
- ・化学混和剤協会では、高機能型化学混和剤の開発が進められている。
- ・コンクリート診断士協会では、業務体験発表会でサステナビリティに関する講演を行った。診断士の業務は、サステナビリティ委員会の活動の本質と大きく関わっている。
- ・セメント協会では、低炭素社会実行計画のフォローアップ業務を実施しており、セメントの CO₂ 排出原単位は、昨年度よりも減少した。
- ・フライアッシュ協会は、協会内の若手向けに、サステナビリティに関する講習会を実施予定である。
- ・骨材資源工学会は、フォーラムの議論内容を持ち帰って紹介し、議論していく。
- ・鉄鋼スラグ協会では、製鋼スラグの環境基準に関するガイドラインの改定作業を行っている。
- ・ISO では、コンクリートの環境設計および環境ラベルに関する規格化作業が進められている。
- ・日本建築学会では、JASS 5 が改定され、制定済みの ISO の紹介、再生骨材コンクリートの指針内容の取込がなされた。また、高炉セメント C 種の地下躯体への利用を推進する指針の改定作業を進めている

4) 第 20 回 2015 年 12 月 14 日

議題と主な討議内容を下記に示す。

①前回議事録確認

②道路技術者へのヒアリングについて

資料・フォーラム 20-2 に基づき、土橋氏により、「サステナブルなインフラの維持管理に向けて」と題して、首都高速道路のマネジメントの現状（首都高の現状、点検技術の現状・開発状況、ICT 技術の開発状況）と課題についての紹介がなされ、その後議論がなされた。

- ・コンクリート構造とするかスチール構造とするかは、場所・要求に応じて決められる。
- ・大規模修繕・大規模更新、シームレスなマネジメントは、土木構造物としては新しい取組である。
- ・寿命の判断としては、補修と更新との費用対効果の比較を実施して行う。

③投資者へのヒアリングについて

資料・フォーラム 20-3-1～3 および資料・フォーラム 20-4 に基づき、飯塚氏・巻島氏により、「不動産と持続可能性～DBJ Green Building 認証制度のご紹介～」と題して、Green Building の意味、認証制度の現状と課題についての紹介がなされるとともに、サステナビリティボンド・グリーンボンドの紹介がなされ、その後議論がなされた。

- ・ DBJ Green Building 認証制度は、Track よりも Policy を見る制度となっている。
- ・ サステナビリティボンド・グリーンボンドについては、長期で投資をしてくれる投資家が望ましく、サステナブルな Building である必要がある。
- ・ サステナブルな Building に対する情報が不足しており、不動産売買においてもサステナビリティ面は評価されていない。
- ・ 認証が金融にリンクすれば、日本の投資家もその方向に急速に流れると考えられる。

④ サステナビリティに関する各業界の動向について

- ・ 鉄鋼スラグ協会は、スラグの活用拡大に関する議論を行っている。
- ・ フライアッシュ協会は、サステナビリティ委員会の情報を会員各社で共有し、議論を進めている。
- ・ 骨材資源工学会は、来年 3 月のフォーラムシンポジウムには会長も出席する予定である。
- ・ セメント協会は、12 月 18 日に堺議長・野口との意見交換会を行う予定となっている。
- ・ 診断士会は、11 月 27 日の業務体験発表会において、診断士とサステナビリティに関する内容を発表し、来年 3 月のシンポジウムへの参加を呼びかける予定である。
- ・ コンクリート製品協会は、グリーン調達を目指して、6 月および 11 月にリサイクル材料の利用に関するアンケート調査を行った。経産省の委託事業「セメント産業における省エネ製造プロセスの普及拡大方策検討会」に参画している。

⑤ 来年度の事業計画について

- ・ フォーラムシンポジウムを継続する。
- ・ 関係業界のヒアリングを継続する。
- ・ 日本建設業連合会・コンサルタント協会の方を本フォーラムのメンバーとして招聘する。
- ・ 建築からは、建築家協会、建築士会、構造技術者協会のいずれかからメンバーを招聘する。

5) 第 21 回 2016 年 3 月 17 日

議題と主な討議内容を下記に示す。

① 前回議事録確認

② ゼネコンへのヒアリングについて

資料・フォーラム 21-2 , 21-3-1 および 21-3-1 に基づき、山田氏により、コンクリートへの J-クレジット制度の活用、木造建築物への取組についての紹介がなされ、その後議論がなされた。

- ・ 土木構造物を対象とせず、建築物を上部構造部と基礎・地下構造部に区別してベースラインを設定したことがポイントである。
- ・ 建築はプロジェクトごとに計算することは可能ではあるが、プロジェクトは多数有り、個別にクレジット申請は煩雑なので、プログラム型プロジェクトという形式を採ることとなった。
- ・ 土木構造物で機能しなかった理由は、土木構造物のベースラインを特定できなかったからである。土木構造物でも、構造種別で分ければ、ベースラインの算出も可能であると考えられる。
- ・ インセンティブは、企業活動の CO₂ 排出量と相殺することであり、CO₂ 排出量の取引も可能と

なる。クレジットの保有者は、建築主かゼネコンに限られる。

- ・ベースラインのコンクリートと低炭素コンクリートとでは、ベースラインのコンクリートの方が安価でなければならないという条件がある。
- ・LVL の製造によってもCO₂ 排出はなされるが、その評価は十分にはなされてはいないのが実情であり、今後、木造におけるCO₂排出量の正しい評価が期待される。

③施策コンサルタントへのヒアリングについて

根本氏により、エックス都市研究所および業務の紹介がなされ、その後、議論がなされた。

- ・27年度調査では、約束草案に基づき、セメント生産量の減少を考慮せず、概算では、2030 年で混合セメントの利用拡大によりCO₂ 排出量を約31万トン削減できることになる調査結果を得た。
- ・調査結果では、セメントの生産量が減少することが予想される中で、2030 年時に2013 年時の混合セメントの使用量と同程度の利用量を維持するくらいの利用率の拡大が求められている。
- ・建築物の地下躯体での利用割合を増加させることが現実的な解決策として期待され、調査の中でも重点的な施策に位置づけられている。
- ・現実的な混合セメントの利用拡大施策としては、CO₂ 削減だけを検討すればよい訳ではなく、建設業、生コンクリート産業およびセメント産業等の多くのステークホルダーが利益を享受できるような持続可能な仕組みづくりについても配慮することが必要と考えられる。また、将来、低炭素型にすることが経済的なメリットがあるということを明確にしないと、なかなか推進することができないような印象を受ける。
- ・最終処分場の建設が難しくなっており、今後、セメント産業での他の副産物・廃棄物の受入ニーズも拡大することが予想されることから、混合セメントの利用拡大にあたって十分に配慮する必要があると考えられる。
- ・報告書は4 月以降にネット上で公開されると考えられる。

④今後のフォーラムの活動について

- ・サステナビリティフォーラム内で議論を閉じてしまうことは望ましくなく、関連業界に情報を流していかねばならず、次のステップとしては、サステナビリティフォーラムの活動を外部に浸透させていく必要がある。
- ・「コンクリート工学」に、活動内容を定期的に連載していくこととする。
- ・シンポジウムの話題としては、J-クレジット制度を取りあげるというのもあり得るが、経済的手法としては他にも様々な手法があり、一つの目的（例えばCO₂削減）に対して関連業界がどう取り組んでいくかを発表した後、議論して一定の方向性を見出すというやり方もある。
- ・シンポジウムの開催時期は9月初旬とし、今後はフォーラムメンバーの所属団体（フライアッシュ協会、化学混和剤協会、コンクリート製品協会）で未登壇の団体にも登壇いただくこととする。
- ・コンクリート技士・主任技士だけでなく、コンクリート診断士に関しても、環境に対する配慮が必要となる資格であるという方向での働きかけを行っていく必要がある。
- ・コンクリート環境士に代わる資格に関しては、今後検討していく予定である。

6) シンポジウム関係

- ①コンクリートサステナビリティに関するシンポジウム—社会とコンクリート・建設産業の持続可能性—

②コンクリートサステナビリティに関するシンポジウムII ―社会の持続可能性に向けた施策とコンクリート・建設産業の役割―
 詳細は、以下、参照。

コンクリートサステナビリティに関するシンポジウム
 ―社会とコンクリート・建設産業の持続可能性―
 ―参加募集―

主催：公益社団法人 日本コンクリート工学会
 後援：土木学会、日本建築学会、日本建設業連合会、建設コンサル
 (予定) タンツ協会、プレストレストコンクリート工学会、全国生コ
 ンクリート工業組合連合会、コンクリート用化学混和剤協会、
 セメント協会、全国コンクリート製品協会、鉄鋼スラグ協会、
 日本コンクリート診断士会、日本フライアッシュ協会

開催日：2015年11月17日(火)

コンクリート・建設産業は、社会・経済基盤整備を担う基幹産業であることは改めて述べるまでもありません。それ故、建設行為と建築物利用により、地球で最も多くの資源・エネルギーを消費する産業であると言えます。世界人口が70億人を超えました。2050年には90億人を超えるとされる一方で、日本は1億人を切る事が予測されています。実質的に国境がなくなったグローバル社会の中では、建設業も国内だけでものを考える時代は終わったと言えます。アジアのインフラ投資は、今後中国やインド、そしてインドネシアのような人口大国を中心に膨大なものとなる事が予測され、昨今の国際情勢を踏まえれば、日本の関与も一層拡大することは確実です。しかし、様々な制約や状況により、現状の技術・システムのみでの事業展開には限界があります。つまり、日本が持続可能な国際社会の構築に貢献する上での優位性が今後極めて重要となります。日本政府は地球温暖化ガス26%削減を表明し、11月末からCOP21が始まります。世界の動きは急です。

日本コンクリート工学会では、サステナビリティ委員会(委員長：野口貴文・東京大学教授)内にコンクリート関連の8団体からなるサステナビリティフォーラム(議長：塚本孝司・サステナビリティ委員会前委員長、日本サステナビリティ研究所代表)を設置し、様々な議論を行ってまいりました。その結果、サステナビリティの考え方が業界発展に極めて重要であることが、特にコンクリート産業の中であまり認識されておらず、技術・システム開発の多くが従来の枠組みの中で行われている、との認識に至りました。このままでは、コンクリート産業が時代の流れから取り残されて、今後、人材の確保も困難になる状況に追い込まれる可能性もあると思われれます。東北復興とオリンピック頼みで、地球温暖化や資源枯渇対策等技術に自ら積極的に取り組んで行かなければ、コンクリート産業はもとより、建設業界も更に縮小し、国内外のニーズに応えることができなくなると思われます。

しかし、幸いなことに、先進的な組織は、明確に時代を読み、果敢に行動を起こしています。そこで、サステナビリティフォーラムでは、こうした挑戦的活動を推進するためのシンポジウムを開催することにしました。企画第一弾は、コンクリート・建設産業で極めて重要な役割を果たしているゼネコンと、それらを支える素材を製造しているセメント産業および鉄鋼産業に、環境・サステナビリティに関する最新技術をご紹介いただくとともに、ゼネコン・素材産業と国土交通省がどのような未来を想定しているのか、またそのために何をしようとしているのかについて、徹底討論します。本シンポジウムは、コンクリート・建設に関する業界の将来展開に多くの示唆を与えるものとなりますので、ふるってご参加ください。

記

- 開催日時：2015年11月17日(火) 10:00~17:00
- 開催場所：東京大学・浅野キャンパス・武田ホール
(〒113-8656 東京都文京区弥生 2-11-16 武田先端知ビル5階)
- プログラム(予定)：
 - 10:00~10:15 開会挨拶
 塚本 孝司(サステナビリティフォーラム議長)
 - 10:15~11:55 ゼネコンI
 - ・大林組の中長期環境ビジョンと環境配慮型コンクリートの普及展開 津崎 昇(大林組)
 - ・ローカーボンハイパフォーマンスコンクリートの開発とその適用 谷口裕史(安藤ハザマ)
 - ・CO₂排出量ゼロ以下の環境配慮型コンクリートによる環境影響評価と今後の展望 岡 健吾(鹿島建設)
 - ・エネルギー・CO₂ ミニマム (ECM) セメント・コンクリートシステムによる建設構造物の省CO₂の実現
 辻大二郎(竹中工務店)、依田和久(鹿島建設)
 - 11:55~13:00 <昼食>
 - 13:00~14:15 ゼネコンII
 - ・環境配慮コンクリートの開発~セメント“ゼロ”と建築基準法指定材料~ 大脇美司(大成建設)
 - ・コンクリート構造物のサステナビリティ思考に基づく設計施工 春日昭夫(三井住友建設)
 - ・水力発電施設のリニューアルにおける解体コンクリートのサステナブル利用 笹倉伸晃(前田建設)
 - 14:15~15:05 セメント・鉄鋼
 - ・持続可能社会におけるセメント産業の役割
 近藤秀貴(セメント協会)
 - ・高炉セメントへの鉄鋼スラグ利用
 森田和哉(鉄鋼スラグ協会)
 - 15:05~15:15 <休憩>
 - 15:15~15:40 国土交通省(住宅局住宅生産課)
 - 15:40~16:50 パネルディスカッション
 コーディネーター：塚本 孝司
 パネラー：野口貴文、各発表者
 - 16:50~17:00 閉会挨拶
 野口貴文(サステナビリティ委員会委員長)

コンクリートサステナビリティに関するシンポジウム II
—社会の持続可能性に向けた施策とコンクリート・建設産業の役割—

開催日：2016年3月9日（水）

主催：公益社団法人 日本コンクリート工学会

後援：土木学会、日本建築学会、日本建設業連合会、建設コン（予定）サルタンツ協会、プレストレストコンクリートエ学会、

全国生コンクリート工業組合連合会、コンクリート用化学
混和剤協会、セメント協会、全国コンクリート製品協会、
鐵鋼スラグ協会、日本コンクリート診断士会、日本フライ
アッシュ協会、骨材資源工学会

2015年12月12日、COP21において新たな温暖化対策「パリ協定」が196カ国・地域によって採択されました。各国の温暖化ガス削減目標が決まります。また、国連は、9月に2030年までに世界が目指す「持続可能な開発目標」を採択しました。そこでは、17の目標のもとに169の小目標を設定しています。気候変動対策や強靱な社会基盤整備、持続可能な生産消費形態の確保、陸域・海域の保護や持続的利用等が挙げられています。国際的なこれらの動きは、地球人口が70億人を超えて90～100億人に増加することが予測され、地球の環境容量に深刻な問題が起り、地球温暖化の影響や人類の社会経済的格差の拡大に大きな懸念があることを示すものです。

人類が必要な社会経済活動をするためにはインフラ・建築物が必須であり、それらの建設・運用には膨大な資源とエネルギーを消費します。問題は、先進国と称される国々の人口は、全体の20%以下に過ぎないことです。つまり、地球人口の80%以上を抱える発展途上国が今後その社会経済活動を活発化することを意味します。また、人口増のほとんどは発展途上国です。一方、日本は、2050年までに人口は1億人を切り、2090年には6000万人以下になるとの推計が提示されています。発展途上国と日本の問題は対極にあるように見えますが、すべて地球上で起こることです。あらゆる現象が複雑に絡み合います。地球を持続可能にするには、先進国は持続可能な技術・システムを開発して、それらを発展途上国の開発に適用する努力をすることが求められます。また、既に、温暖化等に起因する巨大災害を軽減するための適用策を考えなければならない段階に来ている可能性が高いのです。今後は、こうした観点からのインフラ・建築物の建設・運用におけるコンクリート・建設産業の役割を明確にして、適切かつ有効な方策を実施する必要があります。

サステナビリティフォーラムによるシンポジウム第2弾は、上記問題に係る国土交通省、環境省、経済産業省の環境施策の現状と課題についての講演と、それぞれの立場からのコンクリート・建設産業の役割とそのための具体的方策について徹底討論します。本シンポジウムは、コンクリート・建設業界の将来展開に重要かつ有用な情報を与えるものとなりますので、ふるってご参加ください。

1.開催日時：2016年3月9日（水）13：00～17：00

2.開催場所：東京大学・情報学環・福武ホール（東京都文京区本郷7-3-1）

3.プログラム：

開会挨拶 堺孝司（サステナビリティフォーラム議長）

(1) 国土交通省・環境省・経済産業省の環境施策と課題及び展望

国土交通省総合政策局環境政策課交通環境・エネルギー対策企画官 小川智

環境省地球環境局総務課・課長 森下哲

経済産業省産業技術環境局・環境調和産業・技術室長 小浦克之

(2) 土木研究所・国総研における環境関連技術開発の取組

国立研究開発法人土木研究所先端材料資源研究センターグループ長 渡辺博志

国土交通省国土技術政策総合研究所建築研究部建築品質研究官鹿毛忠継

(3) パネルディスカッション

コーディネーター：堺孝司（日本サステナビリティ研究所・表）、パネラー：野口貴文（東京大学・教授）、各講演者

閉会挨拶 野口貴文（サステナビリティ委員会委員長）

以上

報告(3) 幹事 一覧

No.	氏 名	JCD 担当部会	所 属	所属での役職
1	小野 定	JCD 副会長	(株)シーアンドアールコンサルタント	TCD 会長
2	田澤 雄二郎	JCD 事務局長	JCD 理事	TCD 副会長
3	峰松 敏和	企画部会, 技術部会	(有)テクノミネッツ	TCD 技術部会長
4	重松 和男	企画部会	東京コンクリート診断士会	TCD 監査役
5	小林 剛	技術部会	(株)第一テクノコンサルツ	TCD 監査役
6	磯川 省三	技術部会	(一社) 日本コンクリート診断士会	TCD 技術副部会長
7	篠川 俊夫	広報部会	(株)アサノ大成基礎エンジニアリング	TCD 広報部会長
8	降矢 良男	広報部会	(株)日工技研	TCD 広報副部会長
9	天野 智雄	広報部会	(株)フタバコーケン	静岡診断士会幹事
10	星野 富夫	会員部会	(株)土木管理総合試験所	TCD 会員部会長
11	仲田 昌弘	財務部会	新東産業(株)	TCD 事務局長 TCD 財務部会長
12	木村 克彦	財務部会, 事務局	木村技術士事務所	TCD 企画部会長
13	毎田 敏郎	事務局	(一社) 日本コンクリート診断士会	TCD 事務局 TCD 企画副部会長

退任：山田 淳（技術部会副部会長）

以 上

コンクリート診断士会のこれからを考える討論会

主催：一般社団法人日本コンクリート診断士会

プログラム

14:30～17:15 コンクリート診断士会のこれからを考える討論会

14:30～15:30 **第Ⅰ部 各地区コンクリート診断士会の活動報告**

鳥取県、島根県、東京、石川県、青森県、静岡、京滋、高知県
新潟県、長野県、東海、宮崎県、福岡県、富山県、宮城県

15:30～15:40 <休憩>

15:40～17:10 **第Ⅱ部 討論会 ～コンクリート診断士会のこれからを考える～**

コーディネーター パネリスト	日本コンクリート診断士会	会長	林 静雄
	日本コンクリート診断士会	副会長	小野 定
	日本コンクリート診断士会	副会長	佐藤 嘉昭
	福井県コンクリート診断士会	会長	石川 裕夏
	北海道コンクリート診断士会	副会長	田畑 雅幸
	広島県コンクリート診断士会	会長	米倉 亜州夫

第I部 各地区コンクリート診断士の活動報告

(1) 鳥取県コンクリート診断士会

地区の会名：鳥取県コンクリート診断士会

1. 組織情報

- ・設立年：H17年5月
- ・会員数：H28.4.1現在 学術会員2名 正会員42名、個人賛助会員0名 法人賛助会員18社
- ・テリトリー：鳥取県

2. 2015年度活動報告

テーマ「鳥取県コンクリート診断士の今後の10年を考える」

- ・現場見学会の実施（若年技術者への現場体験提供）
- ・JCD業務体験発表会への参加（鳥取県から発信）
- ・子供たちへの広報活動（今後の担い手発掘）
- ・山陰両県（鳥取・島根）設立10周年記念大会の開催

我々鳥取県は

日本海から飛来場分の供給

鳥取県庁

鳥取砂丘

2015年活動状況（現場見学会の実施）

PC橋桁上巻工法

地上水渠施設見学調査

2015年活動状況（JCD業務体験発表会の参加）

子供たちへの広報活動／山陰両県10周年記念大会の開催

3. 2016年度活動計画

テーマ「活用して下さい」から「皆で何かをしよう」

- ・（仮称）コンクリート探偵団（今後の担い手発掘）
- ・現場見学会の実施（若年技術者への現場体験提供）
- ・技術研修会の実施（技術研鑽）
- ・JCD業務体験発表会の参加（鳥取県から発信）
- ・発注者との技術交流会の実施

(2) 島根県コンクリート診断士会

第1版(2016)定期報告

地区の会名：島根県コンクリート診断士会

1. 組織情報

- ・設立年：H17年6月
- ・会員数：H28.4.1現在 学術会員1名 正会員77名 賛助会員28社
- ・活動地区：島根県

2. 27年度活動報告

- ①通常総会及び研修会(H27.6.20)
- ②診断士試験受験講習会(H27.6.25)講師派遣
- ③第9回土木技術講習会(H27.8.27)講師派遣
- ④山陰両県診断士会設立10周年記念大会(H27.9.11)
- ⑤コンクリートサミットin高知 参加(H27.9.25)
- ⑥コンクリート診断士会中国5県会議 参加(H27.11.20)
- ⑦新春例会及び技術研修会(H28.2.13)
- ⑧理事会(計4回)
- ⑨「公共土木施設コンクリート構造物の点検・診断等の支援に関する協定書」調印式(H28.3.24)
島根県土木部、建設技術センター、コンクリート診断士会

2016/5/16 1

第1版(2016)定期報告

3. 28年度活動計画

- ①診断士試験受験講習会(H28.6.3)講師派遣
- ②通常総会(H28.6.4) (特別講演 広島工大 十河先生)
- ③土木技術講習会(H28.9.2)講師派遣
- ④補修現場等見学会(10月頃予定)
- ⑤技術研修会(11月頃予定)
- ⑥理事会(3~4回予定)
- ⑦新春例会(H29.2頃予定)

4. 主な特徴等

点検・診断アドバイザー派遣(28年度より実施)

公共土木施設長寿命化の推進

- ・点検に関する費用の節約、点検・診断の精度向上、職員の技術向上など期待
- ・点検を円滑に実施する体制の整備が必要
- ・的確な修繕工法の選定が困難
- ・健全度判定において、専門家による技術支援がないなどの課題が多く存在する ⇒ アドバイザー派遣制度の確立

2016/5/16 2

第1版(2016)定期報告

専門アドバイザー派遣の流れ

アドバイザー派遣計画に基づき、日程調整の上実施

2016/5/16 3

第1版(2016)定期報告

アドバイス内容

アドバイス①：点検実地指導（点検方法、ポイントの依拠）
 アドバイス②：診断の難しい箇所の診断指導
 アドバイス③：健全度判定に対する助言
 ・Ⅲ、Ⅳの措置対応助言（修繕方法、詳細調査の有無）
 ・修繕等級設計業務の選定工法の助言

※ アドバイス①②③に関して、島根県及び市町村が希望するものについてアドバイザーを派遣
 ※ 橋梁の点検実地指導の他、橋梁以外のコンクリート施設の点検・診断を担当

2016/5/16 4

(3) 東京コンクリート診断士会

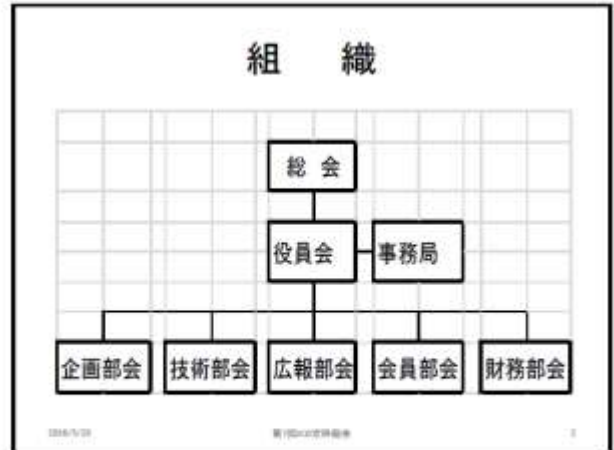
地区の会名：東京コンクリート診断士会

1. 組織情報

- ・設立年：平成17年11月11日
- ・会員数：平成28.4.1現在 学会会員3名 正会員199名、賛助会員9名 総会員計208名
法人会員制度なし
- ・テリトリー：東京都、神奈川県、千葉県、茨城県、埼玉県、群馬県、栃木県

2. 特徴

- テリトリーが広い
- 会員が増えない
- 一年ごとに地区診断士会と共同で現場見学会開催
- 役員がJCD幹事兼任
- 技術セミナーで法人会員の保有技術紹介



2. 2015年の活動報告

総会：平成27年5月26日 於：コンクリート工学会

技術セミナー：平成27年8月27日（第19回）

- ・首都高速道路の維持管理：首都圏保安交通課 永田庄文課長
- ・コンクリート構造物の点検・診断に役立つ機種の紹介：神松敏利
- ・法人会員の症例紹介：日本躯体管理科 RCガードックス
- ・商 標：新アストン CS-21

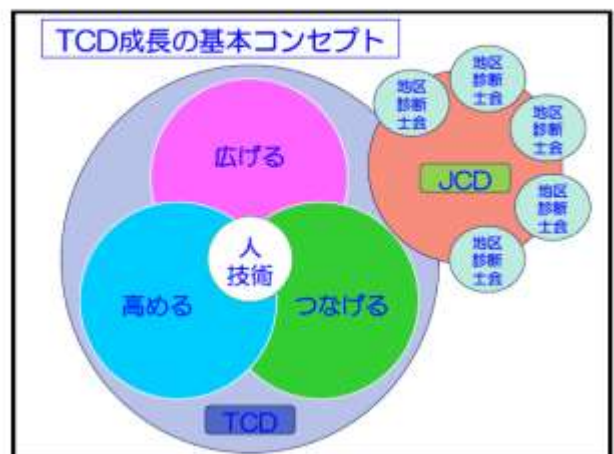
現場見学会：平成27年11月27日 石川県能登地区のアルカリシリカ反応等構造物見学会（JCD、石川県診断士会と協業）

設立10周年記念行事

- ・2015年11月11日 中野サンプラザ 79名参加
- ・TCD小野会長、JCD林会長、JCI河井専務理事ご挨拶
- ・功労者表彰：6名の功労者に表彰状、記念品が授与
- ・TCDのさらなる成長への提言 広げる つなげる 高める
- ・記念講演①
JCD林 静雄会長：「建築におけるコンクリート診断」
- ・記念講演②
東大魚本健人名誉教授：コンクリート構造物の維持管理
- ・座談会：
コンクリート診断士、診断士会が期待することされること
魚本名誉教授、JCD林会長、TCD小野会長 司会：峰松事務局長
- ・祝賀会

2016年度の事業計画

1. 定時総会：2016年5月24日 コンクリート工学会
2. 技術セミナー（維持管理特集）：2016年 7月
3. 技術セミナー（構造・トンネル）：2017年 2月
4. 技術フォーラム（体験発表）：2016年 9月
5. 現場見学会：2016年10月
6. 広げる つなげる 高めるための10年計画始動



(6) 静岡コンクリート診断士会

地区の会名：静岡コンクリート診断士会

1. 組織情報

- ・設立年：H18年12月 (16名)
- ・会員数：H28.4.1現在 正会員69名、
法人会員17社
- ・活動地区：静岡県

2. 27年度活動報告

- 受験対策講座
- 技術研修会2回
- 見学会
- 県研修会講師派遣(2回)
- 地区診断士会との交流

3. 28年度活動計画

- ・ **今年 10周年を迎える事が出来ました。**

受験対策講座



5月開催

技術研修会(2回/年)



国、県、市町 技術者 130出席

見学会



PC工場の見学

講師派遣(県、市)



県技術センター研修

診断士会のPR(ワッペンの作成)



ヘルメットへ

自動車へ

(7) 京滋コンクリート診断士会

地区の会名：京滋コンクリート診断士会

1. 組織情報

- ・設立年：H20年8月
- ・会員数：H28. 4. 1現在 正会員59名、専門会員13名
一般会員14名 計86名 賛助会員16社
- ・主たる活動エリア：京都府、京都市、滋賀県、大阪府他

2. 2015年度活動報告

- 1 通常総会H26. 10. 31
- 2 研修会2回 H26. 10. 31、H27. 7. 24(2頁写真参照)
- 3 現地見学会1回 H27. 9. 29(3頁写真参照)
- 4 役員会9回
- 5 他地区診断士会との交流 1式

京滋コンクリート診断士会



長谷川会長より開会挨拶



河野先生より講演を頂きました



研修風景(ほぼ満席です)



懇親会(奈良県診断士会の副会長より乾杯のご挨拶を頂きました)



NEXCO 西日本 茨木技術研修センター I-TR(アイトレ)での現地見学会実施状況

3. 2016年度活動計画

- 1 研修会 2回
- 2 現地見学会 1回
- 3 他地区診断士会との交流 1式

(8) 高知県コンクリート診断士会

地区の会名：高知県コンクリート診断士会

1. 組織情報

- ・設立年：H20年8月
- ・会員数：H28. 4. 1現在 学会会員2名 正会員34名、賛助会員0名 個人会員計34名 法人会員3社
- ・活動地区：高知県

2. 27年度活動報告

➢ 総会の開催 H27. 5. 16 (26名出席)
 勉強会の開催(総会時)

内容
 自己治癒コンクリートに関する研究
 愛媛大学：氏家勲教授
 「構造力学入門」
 高知工科大学：島教授



氏家教授 島教授

➢ 役員会の開催
 7～8回/年程度

➢ 現場見学会
 H. 25. 5. 22：浦戸大橋補強工事 (27名出席)
 【概要】竣工：昭和47年7月 (1972年)
 構造形式：P C 5 径間連続有ヒンジラーメン箱桁橋
 橋長：601. 2m 建設当時としては日本一の最大支間距離
 大規模地震による落橋防止等耐震補強と老朽化に伴う補修工事




➢ 日本コンクリート診断士会全国総会への参加
 H. 25. 5. 26 原田会長出席

➢ 第3回コンクリート診断士受験対策講座
 H. 27. 6. 13(土)～6. 14(日) 受講者28名
 講師：島弘(高知工科大学教授)、橋本親典(徳島大学大学院教授)、氏家勲(愛媛大学大学院教授)、横井克則(高知高専教授)、近藤拓也(高知高専准教授)

➢ 協働事業への参画

- ・平成27年度高知県土木施工管理技士会研修会
 H. 27. 6. 20(土)～7. 9(土) 講師派遣2名
- ・高知県土木職員基礎研修会
 H. 27. 8. 4(金) 講師派遣 1名
- ・J C I 四国支部 コンクリート構造物インフラドックの実現に向けた調査研究委員会
 期間：H. 27～H. 28の2年間
 委員として原田会長、横田副会長参加



H. 26. 2. 22現場園地(L1の6)

➢ コンクリートサミットin高知 第6回コンクリート技術研修会
 H. 27. 9. 25(金) / 高知工科大学 参加者400名
 講師陣：岡村剛(東京大学名誉教授)、宮川豊章(京都大学教授)、十河茂幸(広島工業大学教授)、畠中秀人(国道交通省)、近藤年昭(高知県土木部)、松本裕之(J R 四国)



岡村教授 宮川教授 十河教授

➢ 各地区診断士会との交流活動
 山陰(鳥取・島根) コンクリート診断士会設立10周年記念大会
 H. 27. 9. 11(金) 松江テルサ 原田会長出席

3. 2016年度活動計画


➢ 日本コンクリート診断士会全国総会への参加
 5月24日(木)

➢ 第4回コンクリート診断士受験対策講座
 6月4日(土)～6月5日(日)の2日間 (問題A,B論文のみ集中講義)
 講師陣：氏家勲(愛媛大学大学院教授)、渡辺健(徳島大学大学院教授)、横井克則(高知高専教授)、近藤拓也(高知高専准教授)

➢ 通常総会
 6月25日(土)

➢ J C I 四国支部 コンクリート構造物インフラドックの実現に向けた調査研究委員会活動
 2016年度～2017年度 (前年度より継続)

➢ 現場見学会
 和食ダム
 重力式コンクリートダム
 ダムコンクリート体積 638, 000m³
 (高知県安芸土木事務所和食ダムHPより)
 7月～8月予定



➢ 第7回コンクリート技術研修会
 9月16日(金)講師予定者：西日本高速インフラリング 山口支店 二宮博支店長
 徳山高専 田村隆弘教授

➢ 高知県土木施工管理技士会研修会講師派遣

(9) 新潟県コンクリート診断士会

地区の会名:新潟県コンクリート診断士会

1. 組織情報

- ・設立年:平成20年10月
- ・会員数:平成28年4月1日現在 学術会員2名 正会員113名
賛助会員6名 個人会員計119名 法人会員17社
- ・テリトリー:新潟県

図-1 会員数の推移

図-2 正会員の職種構成

第7回JCD定時総会 1

表-1 設立からの活動の記録

年次	開催日時	開催内容	開催場所
平成20年	10月25日	「コンクリート診断士の現状と将来」 新潟県建設技術センター 新潟県建設技術センター 新潟県建設技術センター	新潟県建設技術センター
平成21年	10月25日	「コンクリート診断士の現状と将来」 新潟県建設技術センター 新潟県建設技術センター 新潟県建設技術センター	新潟県建設技術センター
平成22年	10月25日	「コンクリート診断士の現状と将来」 新潟県建設技術センター 新潟県建設技術センター 新潟県建設技術センター	新潟県建設技術センター
平成23年	10月25日	「コンクリート診断士の現状と将来」 新潟県建設技術センター 新潟県建設技術センター 新潟県建設技術センター	新潟県建設技術センター
平成24年	10月25日	「コンクリート診断士の現状と将来」 新潟県建設技術センター 新潟県建設技術センター 新潟県建設技術センター	新潟県建設技術センター
平成25年	10月25日	「コンクリート診断士の現状と将来」 新潟県建設技術センター 新潟県建設技術センター 新潟県建設技術センター	新潟県建設技術センター
平成26年	10月25日	「コンクリート診断士の現状と将来」 新潟県建設技術センター 新潟県建設技術センター 新潟県建設技術センター	新潟県建設技術センター
平成27年	10月25日	「コンクリート診断士の現状と将来」 新潟県建設技術センター 新潟県建設技術センター 新潟県建設技術センター	新潟県建設技術センター
平成28年	10月25日	「コンクリート診断士の現状と将来」 新潟県建設技術センター 新潟県建設技術センター 新潟県建設技術センター	新潟県建設技術センター

第7回JCD定時総会 2

2. 2015年度活動報告

- ① 第9回通常総会 平成27年6月25日(出席会員数:76名)
- ② 役員・幹事会 平成27年4月～12月(5回開催)
- ③ 講演会 平成27年6月25日(出席者数:64名)
「議題:コンクリートの塩分拡散係数について」 他
講師:新潟大学建設学科 佐伯教授他
- ④ 実務者報告会 平成27年12月3日(出席者数:95名)
第1部 調査・試験・設計部門 2報告
第2部 施工部門 2報告
- ⑤ 外部団体への講師派遣 平成27年8月28日
新潟県土木衛生権技術研修会
- ⑥ 外部講習会への参加 平成27年6月～12月
第3回JCD実務者報告会
生コンクリート勉強会・コンクリート技術講習会・橋梁技術講習会他5回
- ⑦ 総務行事の開催
長岡花火開業会 平成27年 8月2日(参加会員数:10名)
競輪ゴルフコンペ 平成27年11月19日(参加会員数:12名)

第7回JCD定時総会 3

3. 2016年度活動計画

- ① 第10回通常総会 平成28年6月27日(月)
- ② 講演会 平成28年6月27日(月)
「議題:社会資本の長寿命化対策」
講師:国土交通省 水管理、国土保全局 防災課 森岡様
- ③ 現場研修会の開催 (新潟県建設技術センター結成対象事業)
第1回 平成28年 8月 新潟県村上地域における塩害劣化構架の現場
第2回 平成28年11月 新潟県上越地域における塩害劣化構架の現場
- ④ 技術セミナーの開催
第1回 平成28年10月 内容:コンクリート構造物の補修技術に関わる講演
第2回 平成28年 2月 内容:現場研修会結果報告・公開
- ⑤ 外部講習会への講師派遣(随時)
新潟県(予定)、新潟県土木部・新潟県建設技術センター
- ⑥ 外部講習会・研修会への参加(随時)
- ⑦ 総務行事の開催 ゴルフコンペ他

第7回JCD定時総会 4

(11) 東海コンクリート診断士会

MAG CD 東海コンクリート診断士会
 Mie Aichi Gifu Concrete Diagnosis 東海地区日本人コンクリート診断士会東海支部
 東海コンクリート診断士会

1. 組織情報

- ・設立年： H22年6月
- ・会員数： H28.4.1現在 学術会員1名 正会員72名
 賛助会員26名 個人会員計99名 法人会員10社
- ・活動地区： 三重県、愛知県、岐阜県

2026/5/28 1

2. 平成27年度活動報告

- ・4月11日 研修会 (CPDS 3unit)
 『セメント系補修・補強材料の基礎知識』
 講師 徳永 健二氏 (セメント協会)
- 『コンクリート系文化財建造物の調査・診断・補修』
 講師 谷川 恭雄氏 (名古屋大学名誉教授)
 参加者:86名 (東海38名、JCD所属6名、一般42名)

2026/5/28 2

2. 平成27年度活動報告

- ・5月22日 通常総会 特別講演実施
 『鉄道コンクリート構造物強靱化の取り組みと人材育成』
 講師 松田好史氏 (西日本旅客鉄道常務技術理事)
 参加者:61名、正会員58名、賛助会員3名 (委社状23名)

2026/5/28 3

2. 平成27年度活動報告

- ・6月 2日 コンクリート診断士受験対策講座 (CPDS 3unit)
- ・9月25日 MAGCD業務体験発表会 6件発表 (CPDS 3unit)
 (プログラム)
 開催挨拶 東海コンクリート診断士会 竹内博一会長
 PRシステム 高木新一朗氏 (中日建設株)
 『構造物ARCHIST』 竹内博一氏 (建築建設株)
 火害調査の実態と対応 町田孝利 田中真一氏 (三重県建設資材試験センター)
 長期耐久性を有する、環境に優しい補修材の開発と選定
 佐藤一也氏 (朝ビルドラゲ)
- 『打音検査システム』 藤田浩之氏 (廣井組)
- 『HT-エポルト』 石原カ世 (日本ビルティ株)
- 閉会挨拶 東海コンクリート診断士会 山内昌嗣会長
 懇親会 ワイン角屋ツノ名刺4丁目
- ・11月27日 JCD業務体験発表会 (金沢会場) 参加 (2件発表)

2026/5/28 4

3. 平成28年度活動計画

- ・MAGCD MEの会 各商研修会 (CPDS対象) (4/8予定)
 『補修・補強によるコンクリート構の長寿命化について』
 講師 宮野輔雄氏 (住友大阪セメント株)
- 『MEの会 東濃地域活動事例 道路支保/ウ・ロールを果加して』
 講師 井上雅王氏 (MEの会東濃部会長)
- 『プレストレスコンクリートの基礎 PC構造物の劣化と補修』
 講師 井上誠氏 (安部日鋼工業株)
- 『技術者はコンクリート構造物のどこを診て維持管理すべきか』
 特別講師 渡辺忠朗氏 (北武コンサルタント株副社長)
- ・通常総会 (5/27予定)
 特別講演 牛島栄氏 (青木あすなろ建設株技術研究所所長)
- ・コンクリート診断士受験対策講座 (6/29予定)
- ・現場見学会及び講演会等 (CPDS対象) (夏以降予定)
- ・平成29年度 JCD業務体験・現場見学会 (地方開催分) 準備

2026/5/28 5

4. その他活動について

JCD本部の活動目的の他、下記の様な活動も意欲して行っています。

- ・三重県・愛知県・岐阜県と3県に跨った組織であるのでバランスを取りそれぞれの地域に傾斜した活動を行う。
- ・会員相互の親睦に関する活動を行う。
- ・JCIおよびJCD本部、その他機関との連絡調整に関する活動を行う。
 (例えばJCI中部支部、MEの会*などとの連携)

*: 岐阜大学 社会基盤メンテナンスエキスパート(ME) 以上

2026/5/28 6

(12) 宮崎県コンクリート診断士会

地区の会名：宮崎県コンクリート診断士会

1. 組織情報

- ・設立年：H25年6月
- ・会員数：H28. 4. 1現在 学術会員1名 正会員37名、
賛助会員60名 個人会員計98名 法人会員52社
- ・テリトリー：宮崎県内

2. 2015年度活動報告

- ・2015/6/3 コンクリート診断士試験対策勉強会
- ・2015/6/18 第2回通常総会
- ・2015/11/18 セメント系補修材勉強会
- ・2015/11/24 JCO業務体験発表会（会より3名派遣）
- ・2016/3/23 硬化コンクリート各種試験の紹介

3. 2016年度活動計画

- ・2016年5月25日 コンクリート診断士試験対策勉強会
- ・2016年6月10日 コンクリート診断士試験対策勉強会
- ・2016年6月22日 通常総会

(13) (一社) 福岡コンクリート主任技士・診断士会

福岡県コンクリート主任技士・診断士会

1. 組織情報

- ・設立年：平成27年4月
- ・会員数：平成28. 4. 1現在 正会員43名（個人会員28名・法人会員20社）
- ・活動地区：福岡県、佐賀県

2. 平成27年度活動報告

- ①平成27年度 コンクリート診断士受験・診断技術講習会
日時：平成27年6月30日（水）、7月1日（木）
場所：福岡建設会館 参加人数：22名
- ②設立記念講演会＆懇親会
日時：平成27年8月5日（水）
場所：平和楼 参加人数：98名
- ③平成27年度 コンクリート技士・主任技士受験
及び技術講習会
日時：平成27年10月31日（土）
場所：福岡大学 講義棟4棟 参加人数：25名

3. 平成28年度活動計画

- ①平成28年度 コンクリート構造物の施工及び補修・補強に関する研修会
日時：平成28年5月18日（水）13：00～17：30
場所：福岡大学 60周年記念館 地域交流サロン 定員：50名
- ・懇話提供「工事監視者から見たコンクリート構造物の検査ポイント」
・技術研修「セメント系補修・補強材料の基礎知識 - 新築修復を中心に -」
- ②平成28年度 コンクリート診断士受験・診断技術講習会
日時：平成28年6月18日（土）、6月19日（日）
場所：福岡大学 講義棟4棟 定員：50名
- ③平成28年度 コンクリート技士・主任技士受験及び技術講習会
日時：平成28年10月22日（土）（予定）
場所：福岡大学 講義棟4棟 定員：50名

(14) 富山県コンクリート診断士会



富山県コンクリート診断士会の略歴

- 平成19年6月 会員41名・賛助会員8法人で設立
 - 平成28年の会員数67名 賛助会員数11法人
今年で創立9周年を迎えます。
 - 主な活動内容
 - a) 年2回 技術セミナーを開催
 - b) 2年1回 現場見学会を開催
 - c) 4～5回/年 役員会を開催
- その他、県・建設業界・電力業界などに
コンクリートに関する講演会の講師を派遣

平成28年度の役員

役職	氏名	所属	備考
顧問	宮里 心一	金沢工業大学 教授	
	伊藤 勉	富山県立大学	
会長	安川 榮志	富山県生コン協	
副会長	森 直生	日本交通興業㈱	
幹事	橋本 肇	北電技術コンサルタント㈱	
	川口 清美	北建コンサルタント	
	才田 将功	となみ協立生コン㈱	
	大代 武志	富山県	
	船野 恭成	㈱アイベック	
	藤本 一行	丸新志建建設	
監査役	参納 千夏里	北陸電力㈱	
事務局長	高瀬 俊介	㈱新日本コンサルタント	
事務局長	㈱新日本コンサルタント 本社 管理部門内		

技術セミナーの様子



主な現場見学会

- 射水市 新湊地区のASR・塩害・凍結融解構造物の見学
 - 北陸自動車道 親不知海岸構造物の見学(塩害)
 - 国道160号線(氷見海岸)の塩害対策工法の見学
 - 立山水谷砂防堰堤の見学(国重:白岩砂防)
 - 富山市八尾地内のIPH工法の見学会
 - 立山、雑穀谷の砂防堰堤見学
- ※平成28年度は北陸電力新港火力発電所を見学予定

富山県コンクリート診断士会の決意

- 富山県コンクリート診断士会の会員は行政機関・建設業・生コン・コンサルタント・電力に席を置きコンクリート構造物の設計・施工・維持管理のプロ集団であり関連業界に注目されています。
- その期待に応じよう技術セミナー開催し切磋琢磨し診断力の向上そして地域社会に貢献できるような診断士会になるように努力していきます。


(15) 宮城県コンクリート診断士会

地区の会名：宮城県コンクリート診断士会

1. 組織情報

- 設立年：H26年3月
- 会員数：H28.4.1現在 正会員112名、法人会員6社
- テリトリー：宮城県、東北南部(山形、福島)中心
希望があればどの県の方でも入会可
- 役員：12名
 - 会長：武田 三弘(東北学院大学)
 - 副会長：渡辺 弘子(月の泉技術士事務所)
 - 事務局：古田 博輝(㈱古田レミコン 宮城・ソイルセンター)
 - 幹事：阿部 孝(㈱健康テックコンサルタント)
 - 内田 昌徳(太平洋セメント㈱ 東北支店)
 - 遠藤 晋朗(一社)日本建設業連合会 東北支部)
 - 近藤 克巳(清水建設㈱ 東北支店)
 - 鈴木 秀寿(㈱復建技術コンサルタント)
 - 高橋 宇(東北電力㈱)
 - 西脇 智哉(東北大学大学院)
 - 羽柴 俊明(㈱ネクスコ・エンジニアリング東北)
 - 監事：松川 欣司(BASFジャパン㈱ 東北エリア)

三重県、宮崎県と
差別しないよう、
黒色セラーのハードの
集まりが生れてます



2015/5/18

2. 2015年度活動報告

- 総会(4月)
- 技術講習会2回(4月, 12月)
- EE(Engineering Exhibition)東北'15にて周知活動(6月)
- 法人会員への業務紹介(5件中3件成立)

総会(4月)
出席者59名



総会時
意見交換会
出席者37名



2015/5/18

2. 2015年度活動報告

第2回技術講習会
(4月)
講演3件





2015/5/18

2. 2015年度活動報告

第3回技術講習会(12月)
講演3件





意見交換会




2015/5/18

2014年度活動報告(特記として)

地方自治体の管理する橋梁

- 点検調査の内容精査(176橋)
- 損傷写真からの劣化原因の推定
- 現地視察(6橋)
- 橋梁点検に際してのMCDからの提案



2016年度も、
技術支援の予定




2015/5/18

3. 2016年度活動計画

- 総会(4/21開催済み:出席者61名)
- 技術講習会の開催
 - 第4回(4/21開催済み)
 - 第5回(7月予定:近場1泊見学会)
 - 第6回(12月予定)
- 日本コンクリート診断士会との連携強化
 - 役員11名の入会と情報共有
- JCI東北支部との連携強化
 - JCI東北支部主催勉強会への積極的参加(10月予定)
- 地元自治体、地元大学との連携強化
 - 技術支援(有償、無償)
- 会員増員活動
 - 宮城県内の今年度診断士合格者へのPR活動
- ホームページの積極活用 <http://www.ipc.tohoku-gakuin.ac.jp/mcd/>
 - 会員の即座、活動報告、法人会員の紹介など

2015/5/18

第Ⅱ部 討論会 ～コンクリート診断士のこれからを考える

(1) 福井県コンクリート診断士会

福井県コンクリート診断士会の概要

- ・ 設 立：平成16年3月26日
- ・ 会員数：正会員114名
 賛助会員(法人)30社
 賛助会員(個人)7名
 (平成28年4月30日現在)

内訳

調査・試験	3人
生コン	9人
コンクリート製品	11人
官公庁	18人
コンサルタント	28人
建設	36人
その他	9人

自治体職員向け研修会

官公庁の方の入会率が高い！
 役員としても官公庁の方が協力
 ↓
 官公庁と良好な関係を構築

2015年度 主な活動実績

- ・ 研修会 計9回の開催
 (現場見学会5回、座学4回)
- ・ 福井県道路メンテナンス会議への協力、研修会の開催
 「道路橋定期点検要領に関する実地研修」
 「劣化橋梁を対象とした非破壊検査の実地研修」
- ・ 福井県農林水産部への協力、研修会の開催
 「林道橋メンテナンス研修」
- ・ コンクリート診断士受験対策セミナーの開催
 (福井県建設技術公社との共催)
- ・ フクイ建設技術フェアへのブースの出展
- ・ フェイスブックの立ち上げ
- ・ 国土交通省より、グッド・プラクティスの認定を受ける

他地区の事例を学ぶ研修会

注目！

2016年度 活動計画

- ・ 研修会の開催
- ・ インフラメンテナンス国民会議への参画
- ・ 福井県道路メンテナンス会議への参画・協力
 →アドバイザーボード協定の締結
- ・ 福井県農林水産部への協力、研修会の開催
- ・ 教育機関(大学・工業高等専門学校)との協力・連携
- ・ コンクリート診断士受験対策セミナーの開催
 (福井県建設技術公社との共催)
- ・ フクイ建設技術フェアへのブースの出展

橋梁点検研修会(H28.4.25)

コンクリート構造物の維持管理こそ地産地消で！

我々が思う、コンクリート構造物の維持管理の考え方
 地域のコンクリート構造物は、その地域で維持管理を…。

なぜならば…

- ・ コンクリート構造物そのものが地域の材料を使用
- ・ 地域の自然環境や地理条件の影響が大きい
- ・ 維持管理は、継続的な管理や取り組みが不可欠
- ・ 地域や対象コンクリート構造物への愛着も必要!?

だからこそ…

福井県コンクリート診断士会の使命・理念

福井のコンクリート構造物の維持管理は、**地域環境**、**地域材料**、**地域居住**、**地域に愛着**を大切にする。

地元自治体との密接な連携・協調 →福井方式

福井県橋梁長寿命化修繕計画策定委員会

福井県道路メンテナンス会議

福井県内市・町橋梁長寿命化修繕計画策定委員会

林道橋メンテナンス研修

福井県コンクリート診断士会

県技術公社主催コンクリート診断士受験対策講座

県技術公社点検結果データベース

県市町職員研修会

講師の派遣

相談

助言

居住市町に応じた委員の派遣

講師の派遣

橋梁定期点検マニュアル作成委員の派遣

その成果として…

福井県でのコンクリート診断士の資格要件化

ほんの一例として…

- 橋梁長寿命化修繕計画策定業務委託
- コンクリート構造物診断技術者にて、コンクリート診断士を必須とする。
- 橋梁詳細調査業務委託
- 橋梁詳細調査員等にて、コンクリート診断士を必要としている。
- トンネル打音検査業務委託
- 打音検査員等にて、コンクリート診断士を必要としている。

国土交通省によるグッド・プラクティスの認定

インフラを支える優れた実践事例

地域のコンクリート構造物の維持管理に貢献

(2) NPO 法人大分県コンクリート診断士会

地区の会名：

特定非営利活動法人
大分県コンクリート診断士会

1. 組織情報

- ・設立年：H18年8月
- ・会員数：76名（法人会員 0社）
- ・活動地区：大分県

2. 平成27年度活動報告

- ・受験対策講座
- ・通常総会（第9回）
- ・大分県 業務体験発表会
- ・現場見学会…ドローン、大分川ダム
- ・技術講演会（第19回）参加者294名
- ・大分県建設技術センターとの協働

3. 平成28年度活動計画

- ・H27年度と同様の活動を計画

活動10年にあたり

- ・会員数 27名 → 76名
（会から会員へ何を提供できるか）
- ・交流の場 から 研鑽の場 へ
（大分県 業務体験発表会）
（会員を講師として外部へ派遣）
- ・10周年記念行事 10月7日（金）

JCI年次大会2016にて発表

- ・大分県業務体験発表会
- ・JCD業務体験発表会（石川）
- ・JCI年次大会2016（博多）
『供用後50年以上経過したRC
アーチ橋の耐震補強検討』
児玉明裕（株）サザンテック
辻治夫（株）サザンテック 賛戸辰郎（株）サザンテック
佐藤嘉昭 NPO法人大分県コンクリート診断士会

県）建技センターとの研修の様子

- ・会員から2名を講師として派遣



2名とも講師は初めて

技術講演会（一般向け）の様子

- ・過去10回で延べ2640人の受講



H26年度 H27年度
県内関係者への認知度は向上

(3) 北海道コンクリート診断士会

地区の会名：**北海道コンクリート診断士会**

1. 組織情報

- ・設立年：平成21年1月
- ・会員数：H28.4.1現在 正会員127名、賛助会員・個人12名
賛助会員・法人25社
- ・活動地区：北海道

2. 平成27年度活動報告

(1) 第7回通常総会：平成27年4月22日（水）13：20～

- ・議案-1 平成26年度事業報告
- ・議案-2 平成26年度収支決算
- ・議案-3 平成27年度事業計画(案)
- ・議案-4 平成27年度収支予算(案)

(出席者 116名 ※委任状含む)

(2) 特別講演会：平成27年4月22日（水）14：40～

- ・演題 「シラン系表面含浸材によるコンクリートの耐久性向上に関する話題」
- ・講師 独立行政法人 土木研究所 寒地土木研究所 耐寒材料子チーム 遠藤 裕又 氏
(出席者 62名)

(3) 診断士普及講習会：平成27年5月26日（火）9：30～

- ・内容 「コンクリート診断技術と診断士試験過去問題の演習・解説および昨年度合格者の体験談」
- ・講師 日本データーサービス(株) 木村 博史 氏
日本データーサービス(株) 昨年度合格者2名
北海道コンクリート診断士会事務局 大内
(出席者 28名)

(4) 技術研修会：平成27年8月26日（水）13：30～

- ・演題 ①「連続繊維で補強されたコンクリート梁部材の曲げ挙動」
②「点群データと最新技術その活用と可能性」
- ・講師 ①北海学園大学 工学部 教授 高橋 善裕 氏
②株式会社 岩崎 企画調査部 山本 紀彦 氏
(出席者 38名)

(5) 現場研修会：平成27年10月8日（木）9：15～

- ・内容 「小樽JCT工事（北海道横断自動車道）、石狩新港火力発電所、石狩LNG基地（北海道電力初めてのLNG火力発電所）」
- ・説明者 三井住友建設(株)所長 谷村 剛 氏
北海道電力(株)土木課長 遠藤 勉 氏
(出席者 14名)

(6) 広報活動

1) 外部講師（講師 北海道コンクリート診断士会事務局）

①「後志総合振興局小樽建設管理部 技術職員研修会」
平成27年2月19日（木）13:10～（出席者 60名）

- ・内容 「コンクリート構造物の劣化・変状と発生メカニズム、調査・診断技術」

②「（一社）空知建設業協会 現場技術研修会」
平成27年4月8日（木）9:30～（出席者 105名）

- ・内容 「コンクリート構造物の調査・診断技術」

③、④「（一社）室蘭建設業協会 建設業実務講習会」
平成27年5月1日、10月20日（出席者 各80名）

- ・内容 「コンクリート構造物の耐久性および維持管理の実施例」
- ・内容 「良いコンクリートを造るための施工と管理」

2) 共同活動

テーマ：「積雪寒冷地におけるコンクリート補修工法の設計施工に関する研究委員会」

※公益社団法人 日本コンクリート工学会北海道支部との調査研究活動（平成26年5月～平成28年3月）

①活動目的：積雪寒冷地における補修失敗事例を収集し、「補修べからず集」資料を取りまとめる

②委員会構成：16名（内6名が診断士会会員）

③活動内容：・補修再劣化の事例分析
・積雪寒冷地における補修設計ガイドラインの提案
・橋梁に対する調査・補修設計・施工に関する具体的な対応の提案

④活動報告会：平成28年5月9日（月）13：00～

3.28年度活動計画

- ① 研修会 （会則4条（1）診断技術の向上）
- ② 現場研修会 （会則4条（1）診断技術の向上）
- ③ 総会・講演会 （会則4条（2）診断士の品位保持）
- ④ 普及講習会 （会則4条（3）診断士制度の普及）
- ⑤ 外部講師派遣 （会則4条（1）診断技術の向上）
- ⑥ 技術部会・広報活動・後援等（会則4条（3）普及）

・事業計画工程表

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
H28	中旬 ③補会	下旬 ④⑤	下旬 ①	24日 試験		初旬 ①	中旬 ②③⑥	初旬 ①

(4) 広島県コンクリート診断士会

地区の会名：広島県コンクリート診断士会

1. 組織情報

- ・ 設立年：H23年7月
- ・ 会員数：H28年4月現在
 学会会員2名 正会員79名 賛助会社26社
- ・ 活動地区：広島県

2. 27年度活動報告

開催日	開催内容
第7回コンクリート探検会 H27.4.16	A施設に関する課題報告(探検団9名)
第15回サロン H27.4.16	「コンクリート構造物の診断調査」第15回コンクリート探検会報告
講習会 H27.5.13	広島県測量設計業協会主催「コンクリート診断士資格受験対策講習会」講師派遣
現地研修会 H27.5.10	県内12カ所のコンクリート施設の現地調査(参加者26名)
第4回総合時記念講演 H27.7.8	岡山大学 綾野教授「下水道におけるコンクリートの劣化の特徴、調査における場面の影響、それらを改善する高耐スラグの効果」
第8回コンクリート探検会 H27.9.3	F施設に関する課題報告(探検団11名)
第20回サロン H27.9.3	「コンクリート構造物の診断調査」第8回コンクリート探検会報告
第21回サロン H27.11.21	講演会「建築現場は賑(あ)りたし」コンクリートメンテナンス協会 広島和歌山支部委員長
講習会 H27.11.26	広島市職員向け「コンクリート品質管理講習会」講師派遣
第22回サロン H28.1.13	第1回 広島 平和モニュメント 長寿命化計画 検討会 (計画主管説明会)
第23回サロン H28.3.3	第2回 広島 平和モニュメント 長寿命化計画 検討会 (平和の灯 調査計画検討会)

サロン開催5回、探検会2回、現地研修会1回、記念講演1回

3. 28年度活動計画

- ①第6回通常総会(7月中旬予定)
- ②技術研修会(サロン)5回(隔月予定)
- ③講演会1回(第6回通常総会時予定)
- ④診断士普及講習会:講師派遣
 広島市職員向け「コンクリート品質管理講習会」
 広島県測量設計業協会主催
 「コンクリート診断士受験講習会」など
- ⑤現場研修会1回(6月ごろ予定)
- ⑥役員会 (隔月6回サロン開催日に予定)
- ⑦「平和の灯」のボランティア調査(5月12-14日)と長寿命化計画立案
 (8月以降 広島市へ提案予定)

コンクリート探検会 活動

会員から有志を募り合同でコンクリート診断をする活動を平成26年4月より、これまで3回実施している。

あらかじめ下見された市内数カ所のコンクリート構造物の変状を案内人の引率で見回り、合同診断した結果を他の会員も集まった定期勉強会(サロン)で発表し、意見交換するということである。



コンクリート探検会 診断結果発表検討会



コンクリート探検会については、昨年金沢市で実施された「J-CD業務体験発表会」、福井県コンクリート診断士会やセメント協会機関紙「セメント・コンクリート」6月号でも発表

平和記念公園 平和の灯 ボランティア調査 平成28年5月12-14日

設立年月日:1964年(昭和39年)8月1日
 設立者:平和の灯建設委員会
 設計者:丹下健三
 管理者:広島市都市整備局軽化推進部緑政課
 形状:台座は、平首を合わせ、平の0.6を大空にひろげた形を表現している。
 構造:RC造、高さ3m×幅19m×奥行8m

